

横浜市
幼保小連携・接続に関する調査 2023
報告書

横浜市こども青少年局

横浜市教育委員会

調査 2023 の趣旨 ならびに 調査について

【名 称】横浜市幼保小連携・接続に関する調査 2023

【実態調査の趣旨】

横浜市子ども・子育て支援事業計画の基本政策1「乳幼児期の保育・教育の充実と学齢期までの切れ目のない支援」において、保育・教育の質確保・向上に向けた幼保小の連携や交流、接続カリキュラム等の実施状況を把握するため、市内保育施設、小学校を対象とした実態調査を実施した。また、調査結果を活かし、幼保小連携諸事業の現状と課題について考察するとともに、課題解決に向けた新たな取り組みにつなげていく。

【調査対象】

- (1) 横浜市内の公立保育所、民間保育所、幼稚園、認定こども園
※年長児が在籍していない(新規開設を含む)施設も調査対象としています
- (2) 市立小学校・義務教育学校(前期課程)
※令和元年度から、横浜市立特別支援学校を除く

【調査方式】アンケート方式(令和5年12月18日～令和6年1月19日)

Google フォームを使用

【調査対象期間】令和5年度(令和5年度小学校入学児童の接続期を対象)

【回収状況】

	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	全体数	提出数	回収率	全体数	提出数	回収率	全体数	提出数	回収率
公立保育所	65	65	100%	61	61	100%	58	58	100%
民間保育所	771	591	77%	795	481	61%	807	431	53%
幼稚園	226	180	80%	223	84	38%	220	110	50%
認定こども園	60	51	85%	64	39	61%	67	38	57%
小学校・義務教育学校	339	339	100%	338	338	100%	338	338	100%
合 計	1461	1226	84%	1481	1003	68%	1490	975	65%

【調査担当】

幼稚園・認定こども園・保育所 …… 横浜市子ども青少年局 保育・教育支援課 幼保小連携担当
小学校・義務教育学校 …… 横浜市教育委員会事務局 小中学校企画課

【報告書編集・発行】

子ども青少年局保育・教育支援課幼保小連携担当 671—3731

幼児教育施設編

□幼児教育施設 回答率:55% 全(637園/1152園)

調査全体の分母

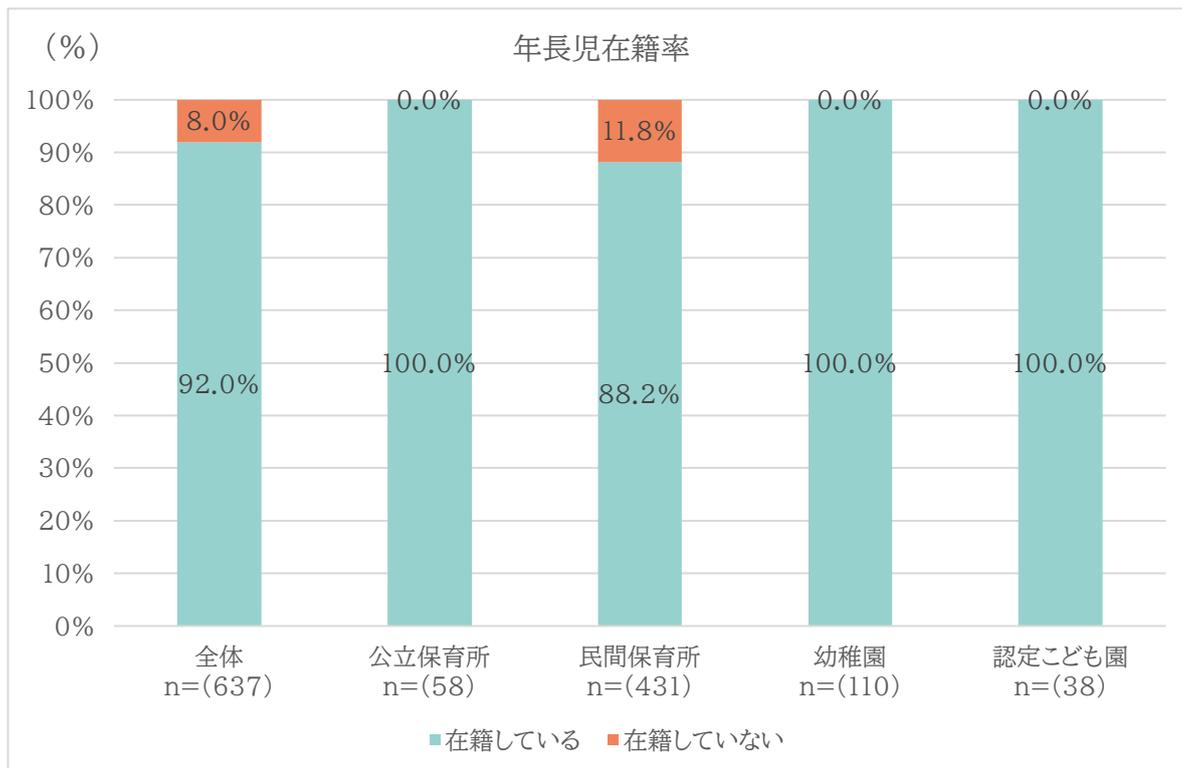
公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
58	431	110	38	637

各種別の総数

公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
58	807	220	67	1152

今年度(令和5年度)、園に年長児は在籍していますか

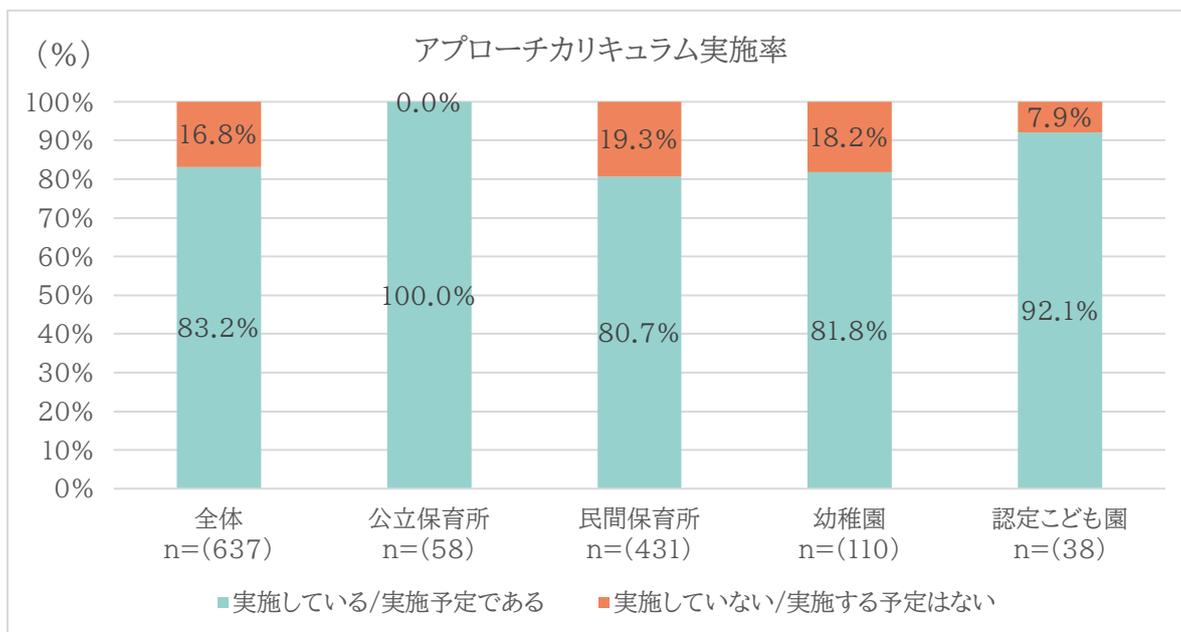
	公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
在籍している	58	380	110	38	586
在籍していない	0	51	0	0	51



設問1:アプローチカリキュラムの実施有無

今年度、アプローチカリキュラムは実施していますか。実施予定も含めます。(1つ選択)

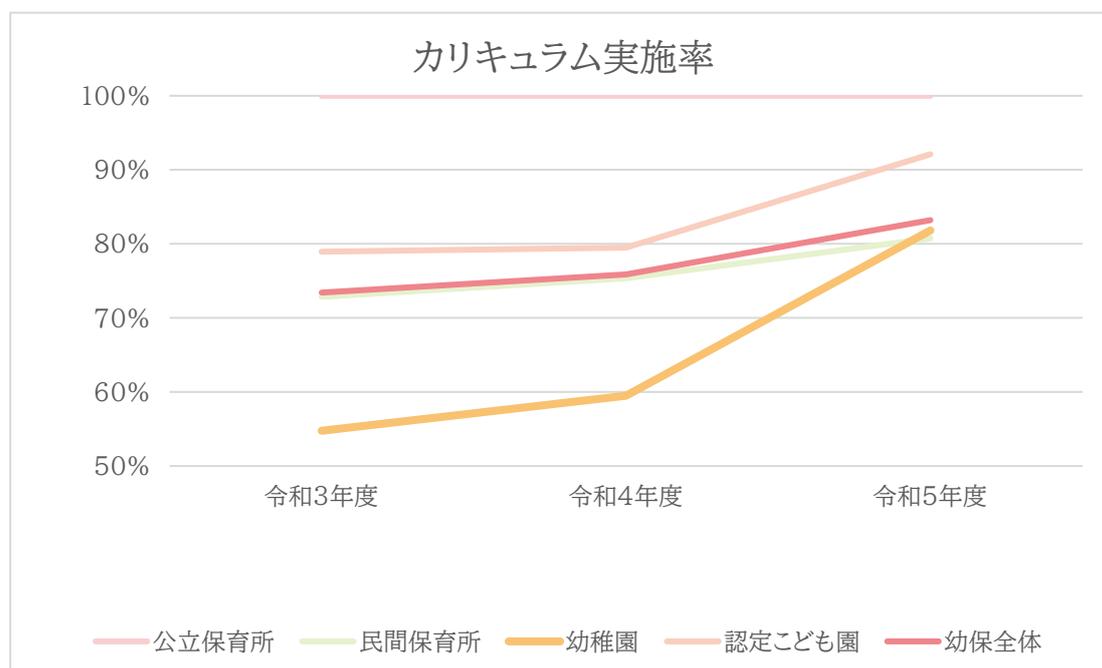
	公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
実施している/ 実施予定である	58	348	90	35	530
実施していない/ 実施する予定はない	0	83	20	3	107



【分析】

・全施設種でアプローチカリキュラムを実施した割合が8割を超えており、令和3年度からの経過をみると9.8pt上昇している。この分野において積極的な取り組みが行われていることが分かる。

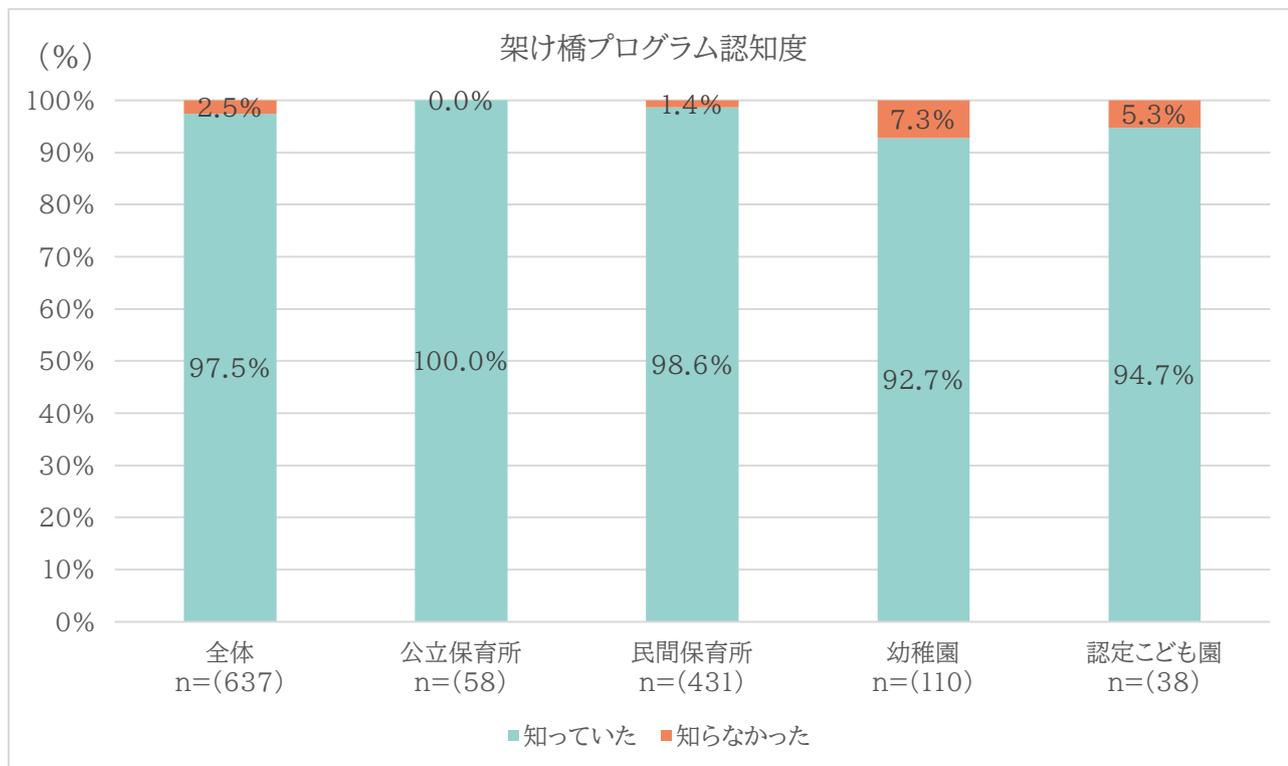
・幼稚園は、令和3年度・令和4年度は他の施設種よりも低かったが、令和5年度は8割を超え他の施設種と同程度となった。



設問 2: 架け橋プログラムの認知度

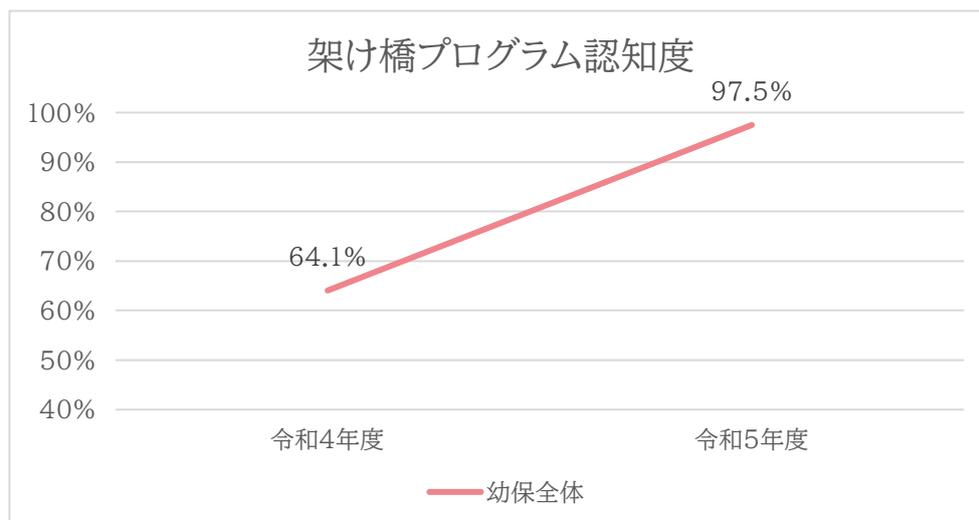
令和4年度から、「幼保小の架け橋プログラム」が始まったことを知っていましたか。(1つ選択)

	公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
知っていた	58	425	102	36	621
知らなかった	0	6	8	2	16



【分析】

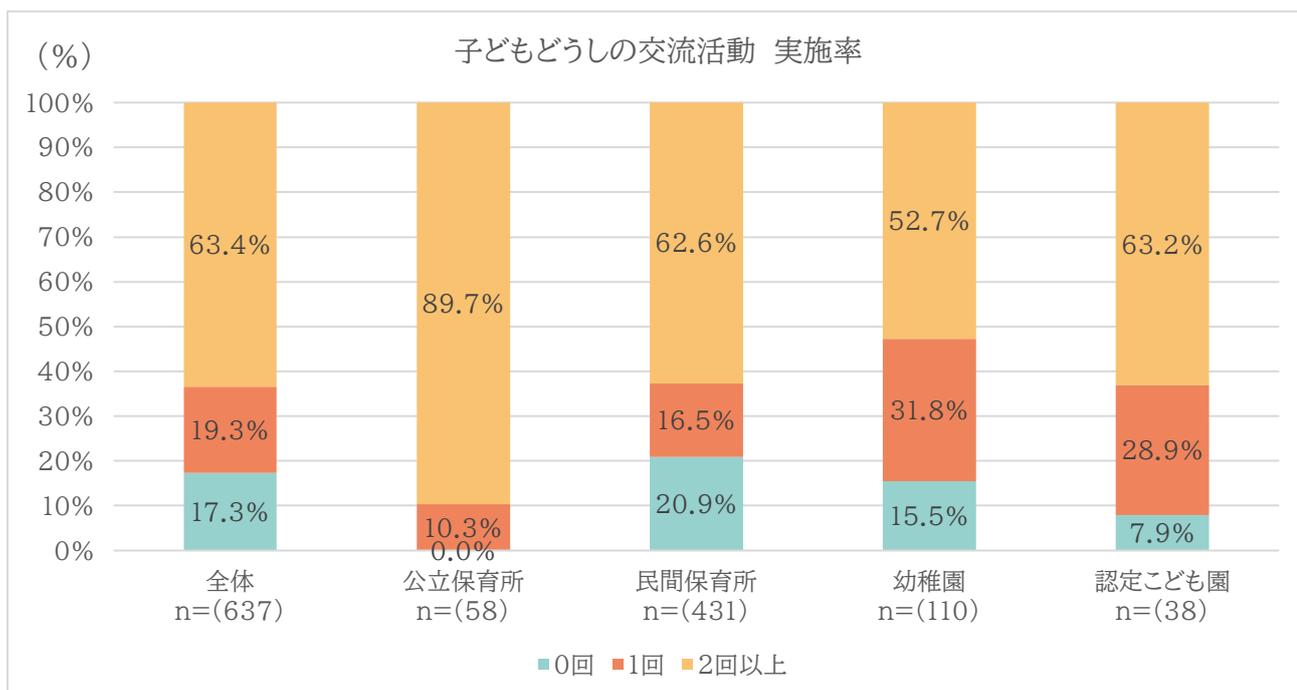
・全施設種で認知している割合が9割を超えた。令和4年度と比べると、+33.4pt と認知度が大幅に上昇している。



設問 3:子どもどうしの交流活動の実施回数

今年度、小学校や他の園の子どもと、自園の子どもが、子どもどうしが一緒に活動する「交流活動」は何回実施しましたか。（1つ選択）

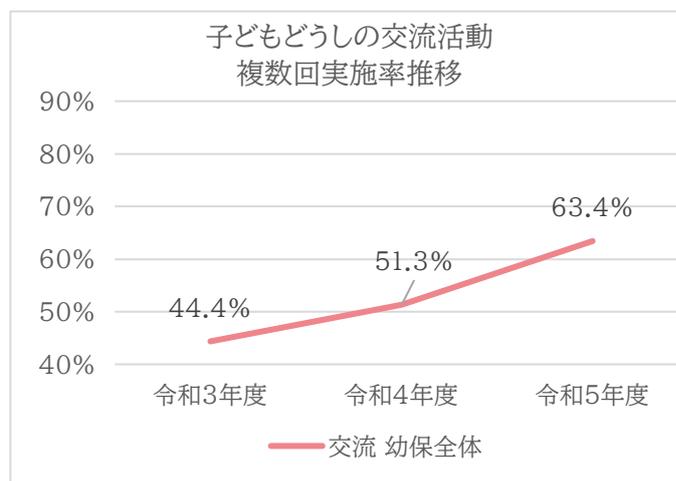
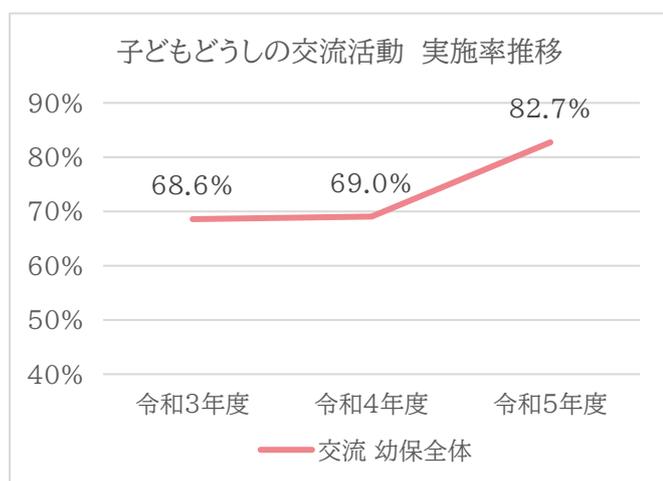
	公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
0回	0	90	17	3	110
1回	6	71	35	11	123
2回以上	52	270	58	24	404
合計	58	431	110	38	637



【分析】

・公立保育所は特に実施率が高く、交流活動を実施した割合が100%であった。また、2回以上実施した割合が9割弱であり、他の施設種と比べても高い結果となっている。

・令和3年度からの経過をみると、「少なくとも1回以上実施した割合」は+14.1ptと大幅に上昇した。また、複数回実施した割合は+19ptとなっている。

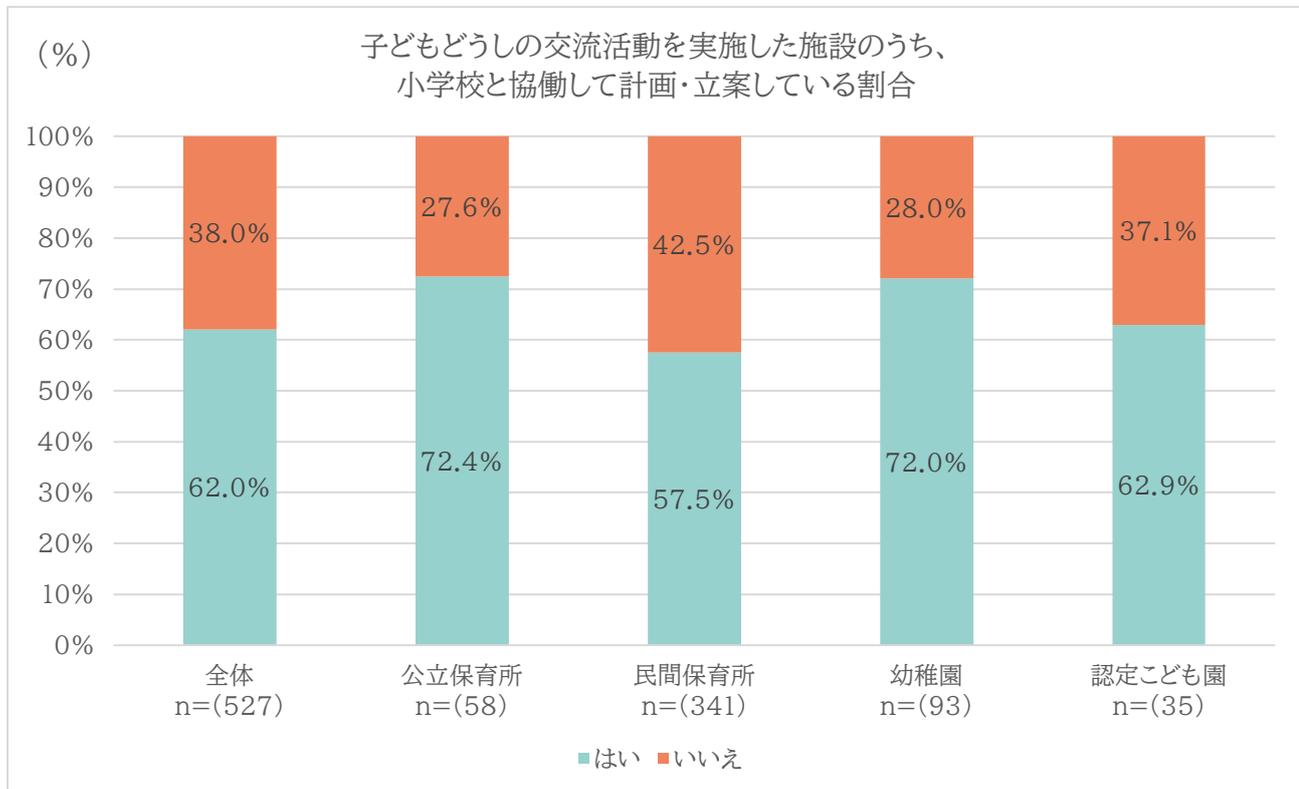


設問 4: 交流活動の計画・立案の協働有無

子どもどうしの交流活動の内容は、小学校と協働して計画・立案しましたか。(1つ選択)

(n=設問 3 で「1回」「2回以上」の回答数)

	公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
はい	42	196	67	22	327
いいえ	16	145	26	13	200



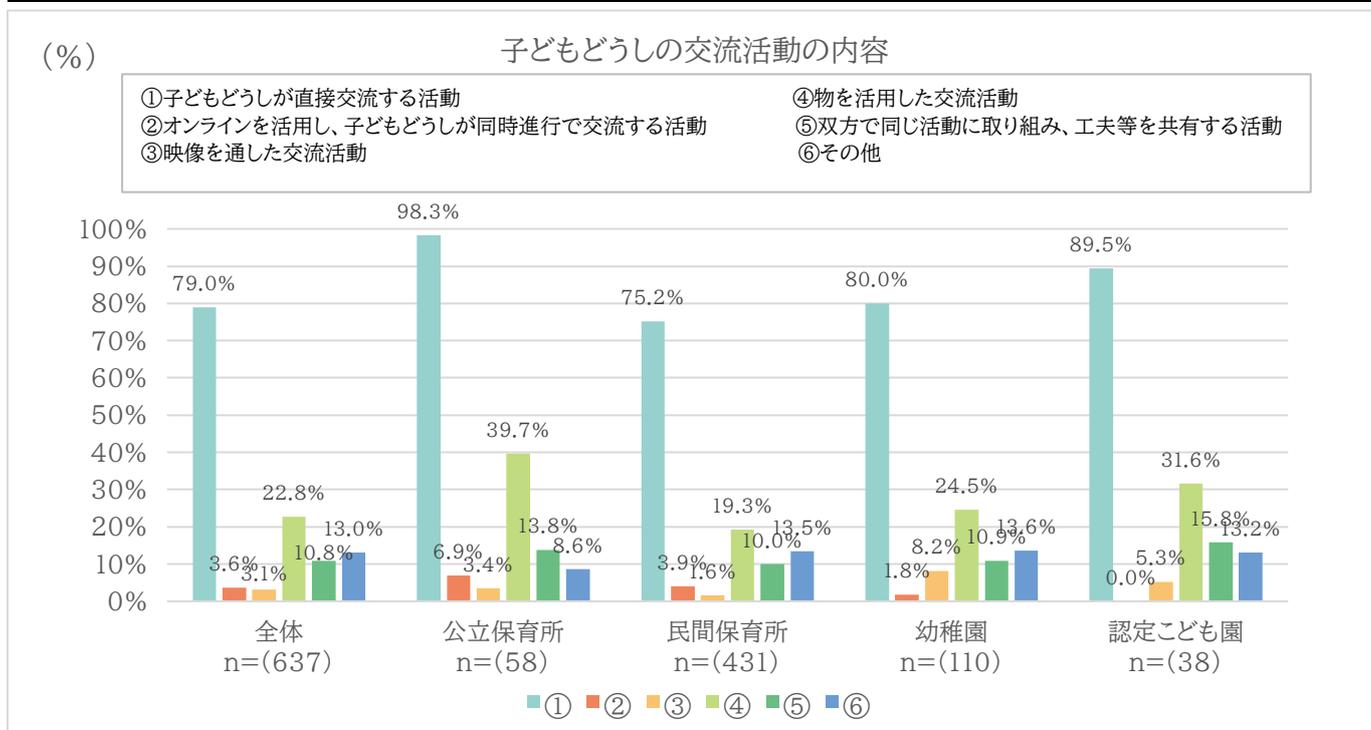
【分析】

・全ての施設種において、交流活動を行った施設のうち、半数以上が小学校と協働で計画・立案したと回答した。

設問 5-1:子どもどうしの交流活動の内容

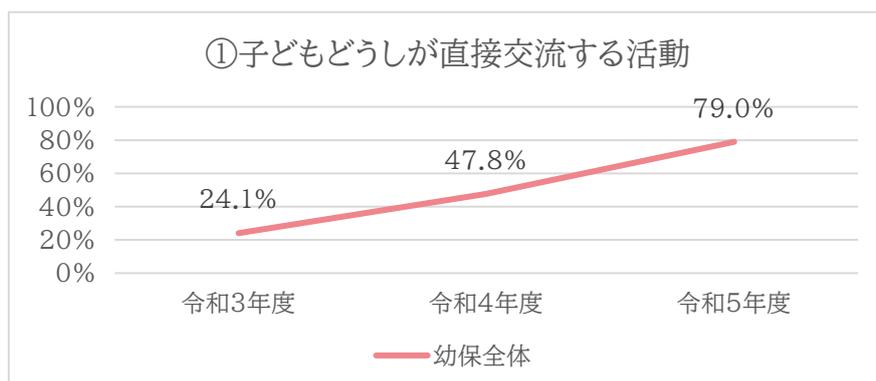
子どもどうしの交流活動の内容を教えてください。(複数選択可)

	公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
①子どもどうしが直接交流する活動	57	324	88	34	503
②オンラインを活用し、子どもどうしが同時進行で交流する活動	4	17	2	0	23
③映像を通じた交流活動	2	7	9	2	20
④物を活用した交流活動	23	83	27	12	145
⑤双方で同じ活動に取り組み、工夫等を共有する活動	8	43	12	6	69
⑥その他	5	58	15	5	83



【分析】

・「①子どもどうしが直接交流する活動」を選んだ割合が最も高く、全体で 79%となっている。令和3年度と比較すると大幅に高くなっており、54.9pt 上昇した。子どもたちが直接交流できる機会が急増したことが分かる。



設問 5-2: 交流活動の内容 その他記述

その他と回答した方に質問です。子どもどうしが交流した内容について教えてください。(記述)

[抜粋]

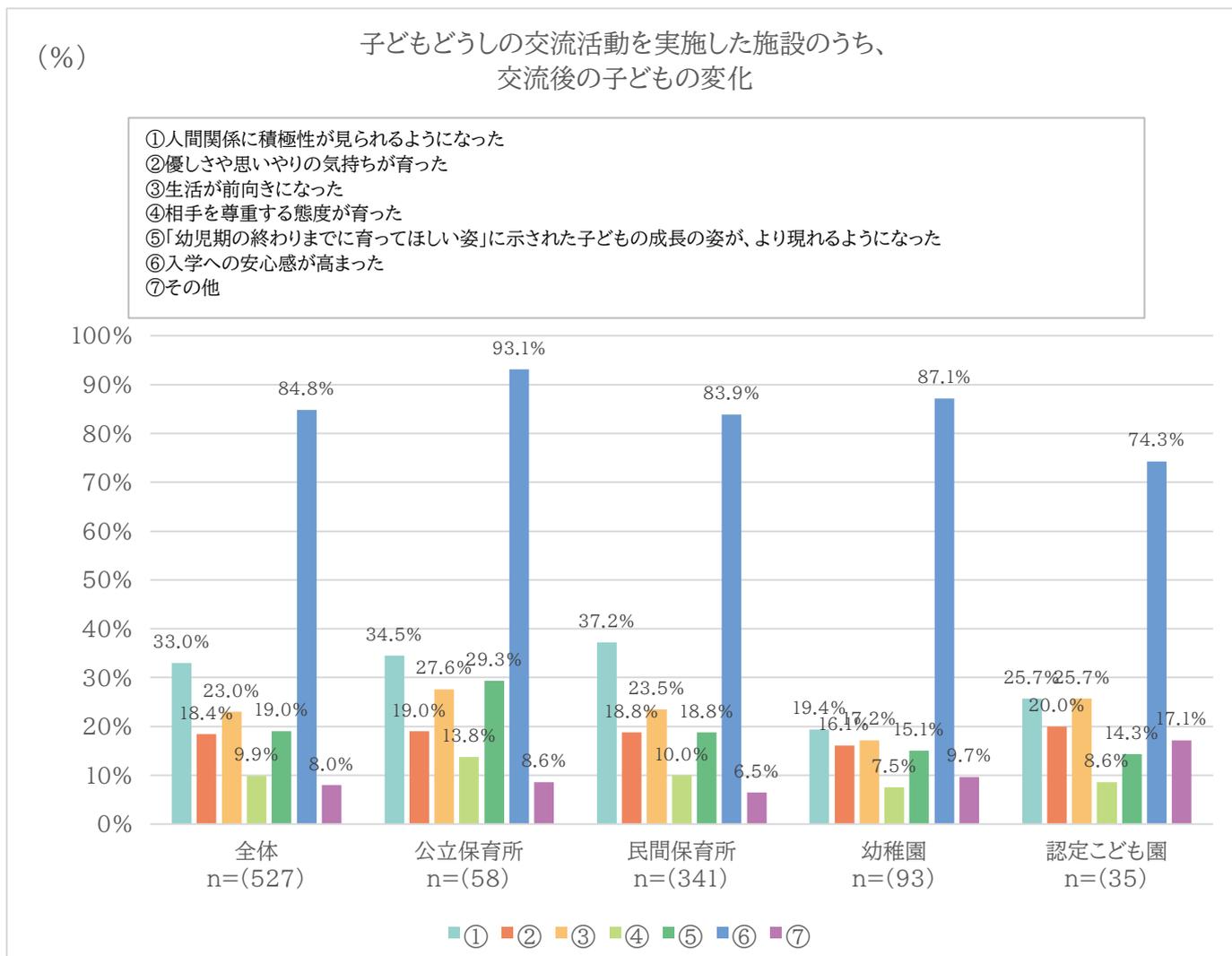
- ・学校探検
- ・小学校から招待され水遊びに 2 回参加した
- ・ダンスや運動会の演目を教えてもらったり、ペアで小学生が計画・準備した製作を一緒に行ったりした。
- ・公園交流(えきでん、なべなべそこぬけ、小グループ自己紹介等)、小学校見学、小学校レクリエーション
- ・図書時間に一年生と本に触れながら交流をした
- ・生活科の授業に参加し、一緒にゲームをしたりプレゼントをもらったりした。学校の記念式典に参加させていただいた。学校行事(運動会)の見学をさせていただいた。
- ・園紹介ポスター、手紙交換
- ・年長児の小学校訪問、見学時に、小学1年生が迎えてくれ、一人ひとりに折り紙をくれた。
- ・新聞交換、散歩交流、小学校秋まつり参加
- ・ダンスや運動会の演目を教えてもらったり、ペアで小学生が計画・準備した製作を一緒に行ったりした。

設問 6-1:子どもどうしの交流活動後 子どもの変化

子どもどうしの交流活動を経て、子どもにどのような変化がありましたか。(複数選択可)

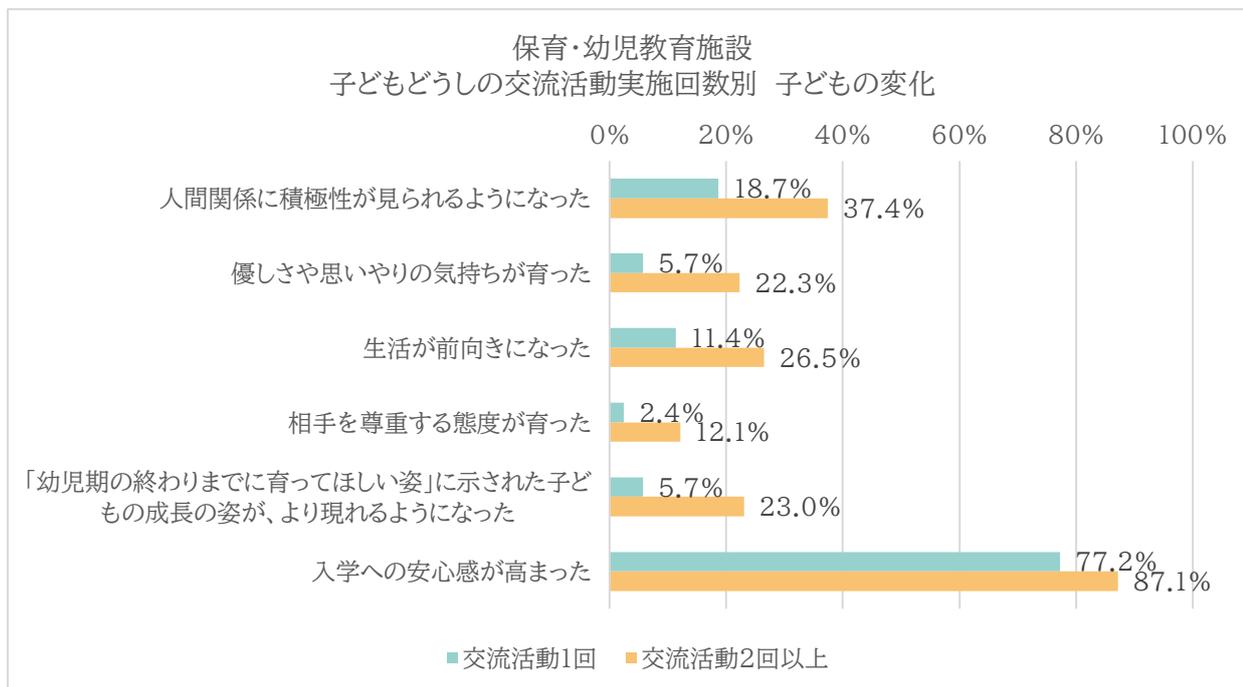
(n=設問 3 で「1 回」「2 回以上」の回答数)

	公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
①人間関係に積極性が見られるようになった	20	127	18	9	174
②優しさや思いやりの気持ちが育った	11	64	15	7	97
③生活が前向きになった	16	80	16	9	121
④相手を尊重する態度が育った	8	34	7	3	52
⑤「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に示された子どもの成長の姿が、より現れるようになった	17	64	14	5	100
⑥入学への安心感が高まった	54	286	81	26	447
⑦その他	5	22	9	6	42



【分析】

- ・「⑥入学への安心感が高まった」を選択した割合が他と比較して大幅に高く、全体で 84.8%となっている。
- ・交流活動 1 回実施よりも、交流活動 2 回以上実施した方が、子どもの変化の選択率が高い。交流活動を複数回実施することで、子どもたちに起こる変化も実感しやすいことが示唆される。



設問 6-2:子どもどうしの交流活動後 大人の変化

子どもどうしの交流活動を経て、保育士・教師・保護者等にどのような変化がありましたか。(複数選択可)

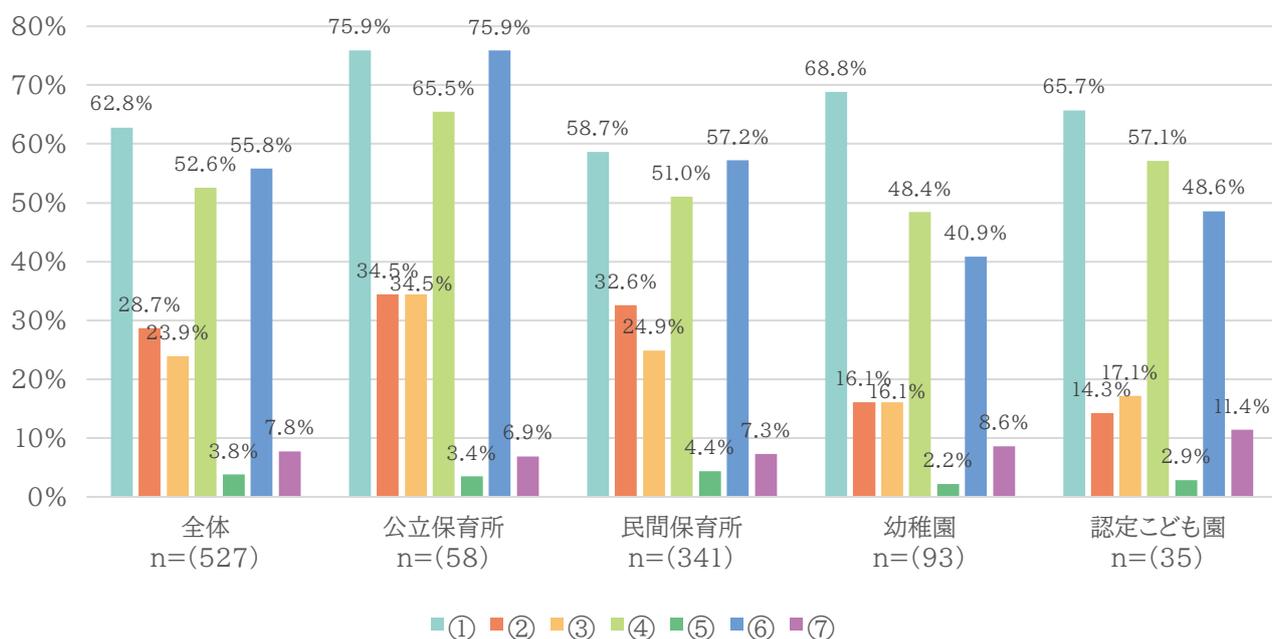
(n=設問 3 で「1 回」「2 回以上」の回答数)

	公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
①小学校とのつながりが深まった	44	200	64	23	331
②園の環境構成や子どもへの支援の在り方により変化が見られた	20	111	15	5	151
③「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」への理解が深まった	20	85	15	6	126
④幼保小接続に対する理解が深まった	38	174	45	20	277
⑤アプローチカリキュラムの改善が行われた	2	15	2	1	20
⑥小学校入学に向けた保護者の安心や意識の向上につながった	44	195	38	17	294
⑦その他	4	25	8	4	41

(%)

子どもどうしの交流活動を実施した施設のうち、
交流後の保育士・教師・保護者の変化

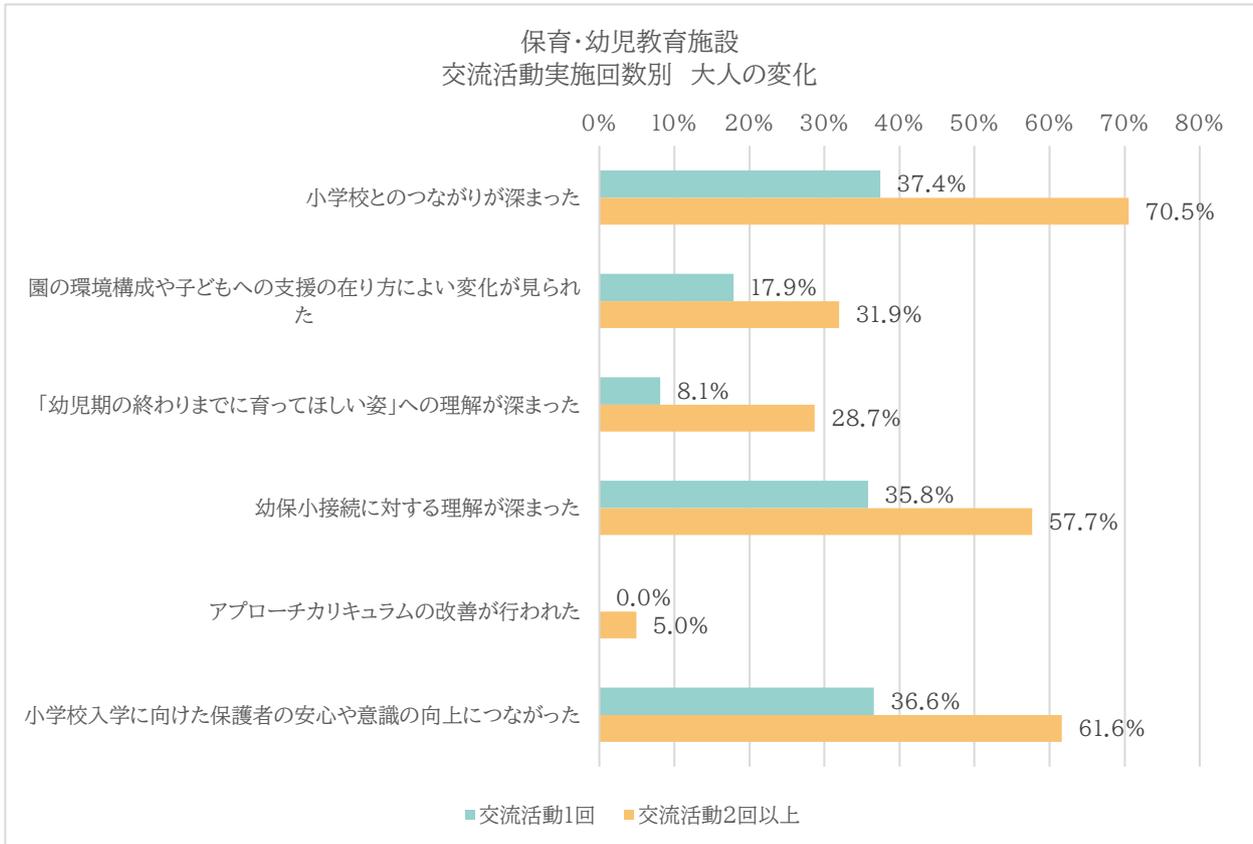
- ①小学校とのつながりが深まった
- ②園の環境構成や子どもへの支援の在り方により変化が見られた
- ③「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」への理解が深まった
- ④幼保小接続に対する理解が深まった
- ⑤アプローチカリキュラムの改善が行われた
- ⑥小学校入学に向けた保護者の安心や意識の向上につながった
- ⑦その他



【分析】

・子どもどうしの交流活動を実施した施設のうち、50%を超える施設が、「①小学校とのつながりが深まった」「⑥小学校入学に向けた保護者の安心や意識の向上につながった」「④幼保小接続に対する理解が深まった」を選んでいる。

・交流活動1回実施よりも、交流活動2回以上実施の方が、大人の変化の選択率が高い。交流活動を複数回実施することで、大人に起こる変化も実感しやすいことが示唆される。



設問7: 交流活動未実施の理由や課題

子どもどうしの交流活動の実施ができなかった理由や、課題についてお聞かせください。(記述)

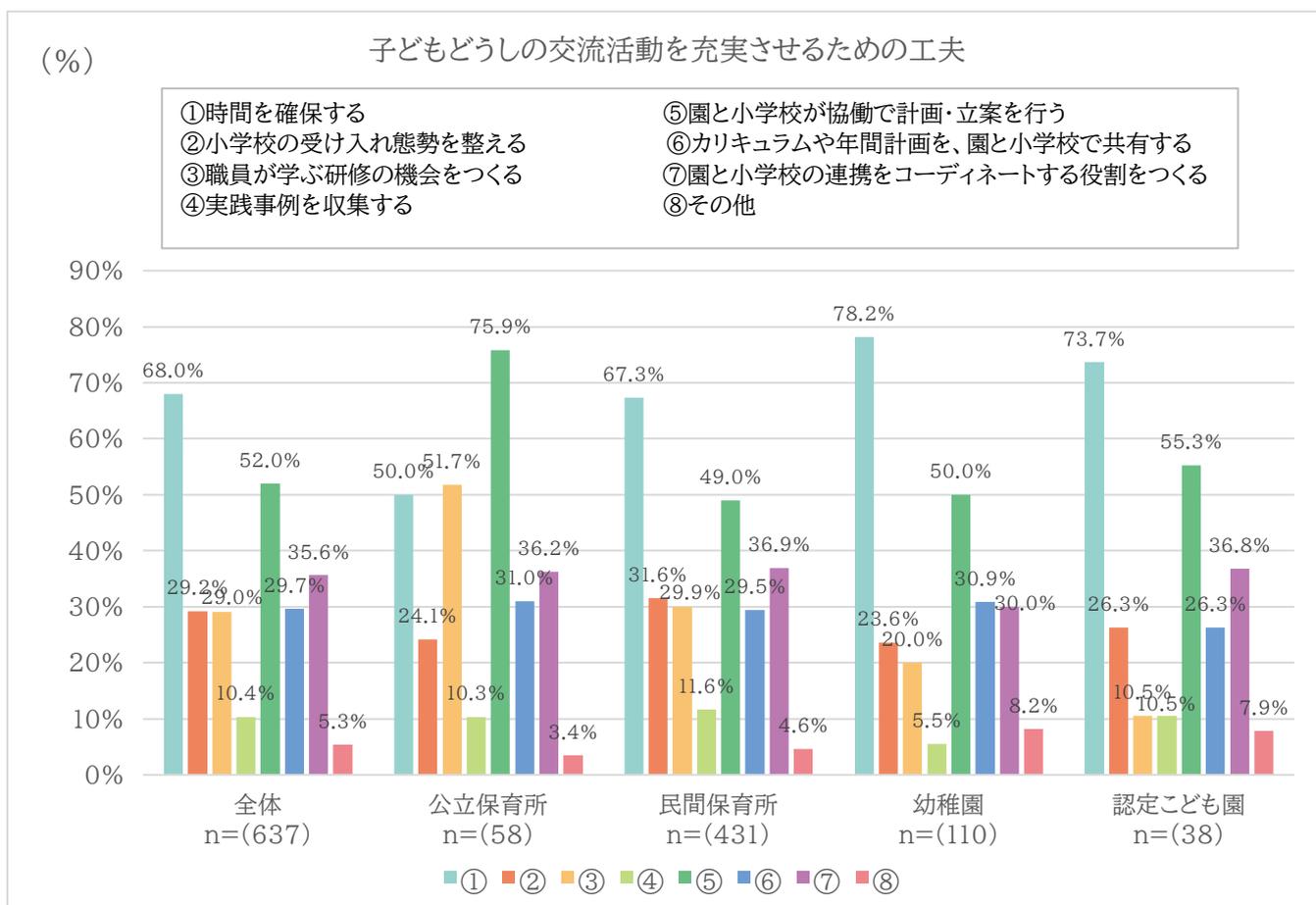
[抜粋]

- ・時季によっては交流することによっての感染症の拡大も心配である。
- ・小学校の予定や忙しい時期が分からず、実施計画を立てにくい。
- ・交流はしたいが、こちらから進んで関係性を作れていないところが課題と感じている。
- ・コロナ感染症以降、小学生を交えた行事が途絶えてしまった。多くの地域から通園してきている関係で入学する小学校が多く、決まった小学校と連携が取りにくい。
- ・小規模保育園(2歳児まで)のため
- ・人員不足により、日々の保育が多忙な為
- ・天候の関係で開催中止となった。また、これから予定しているものもある。
- ・感染症の流行が互いの園等に出ると予定が組みにくい。
- ・開園3年目の園で、やっと年長児がいる年となったが、近隣との交流がコロナで出来ず、5類に移行して、来年度からは小学校との連携を計っていきたいと思っている。
- ・カリキュラムやイベントが多く他園との調整が難しい為

設問 8-1:子どもどうしの交流活動を充実させるための工夫

子どもどうしの交流活動をより充実させるためには、どのような工夫が必要と考えますか。(3 つまで選択可)

	公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
①時間を確保する	29	290	86	28	433
②小学校の受け入れ態勢を整える	14	136	26	10	186
③職員が学ぶ研修の機会をつくる	30	129	22	4	185
④実践事例を収集する	6	50	6	4	66
⑤園と小学校が協働で計画・立案を行う	44	211	55	21	331
⑥カリキュラムや年間計画を、園と小学校で共有する	18	127	34	10	189
⑦園と小学校の連携をコーディネートする役割をつくる	21	159	33	14	227
⑧その他	2	20	9	3	34



【分析】

- ・全体では「①時間を確保する」が最も高く、これはどの施設種でも半数を超えている。次いで高いのは「⑤園と小学校が協働で計画・立案を行う」であり、これは公立保育所において最も割合が高かった。
- ・公立保育所では他と比較して「③職員が学ぶ研修の機会をつくる」の割合も高い。施設種によって割合にばらつきが生じているため、種別によって工夫が異なる可能性が高い。

設問8-2:交流活動充実のための工夫 その他記述

その他と回答した方に質問です。子どもどうしの交流活動充実のための工夫について教えてください。(記述)

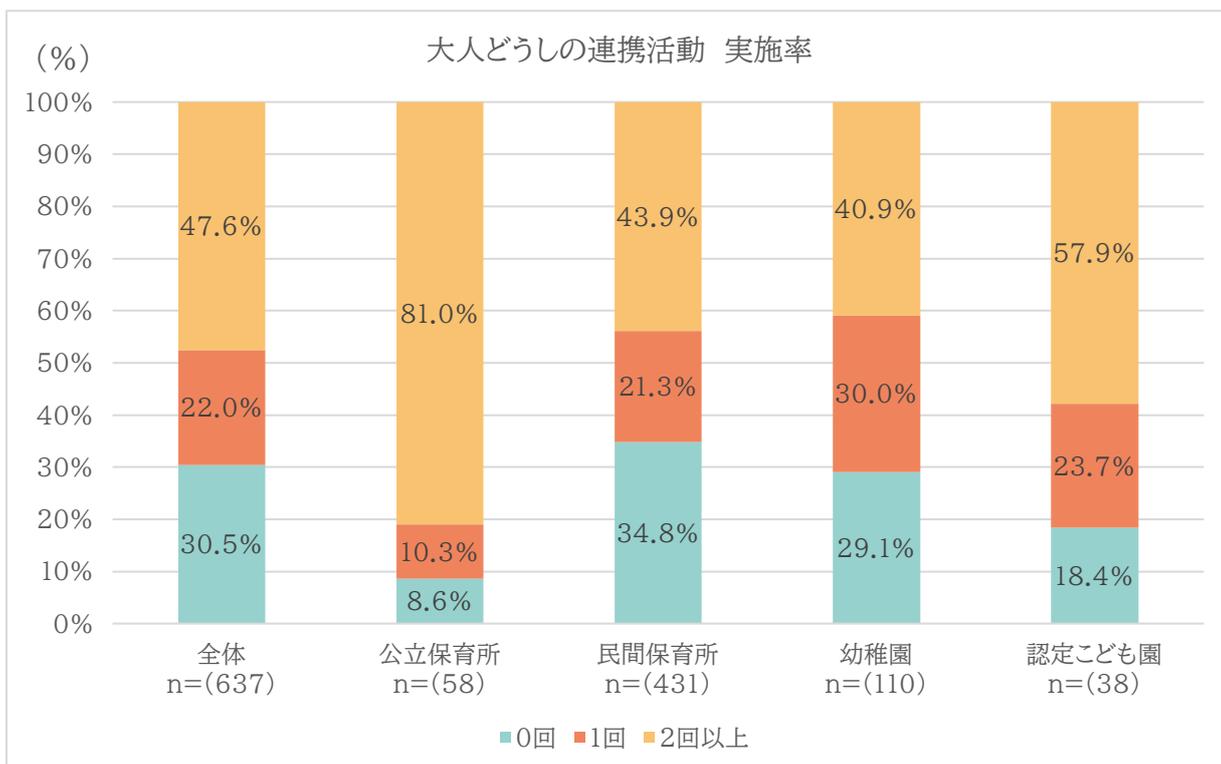
[抜粋]

- ・毎回、交流を1回やると完結してしまう。年間を通じて取り組めるものがあると良い。「忙しいかな…」と思って連絡を取りづらい。
- ・職員がオンラインで打ち合わせを行う
- ・学校給食に幼稚園児を招待してほしい
- ・交流をする前に職員が集まり、交流内容についてお互いにどのような活動にしたいのか要望や現在の子どもたちの姿を伝え合い決めている。
- ・園児数が多く進学する小学校が複数ありますが、そんな中でも卒園児が一番多く入学してゆく地域の小学校との連携があり協力して頂いている。
- ・園と小学校が協働で計画・立案を行う・園と小学校の連携のコーディネートをする役割をつくる。
- ・小学校の先生が幼稚園の保育を見た方がより連携や計画が進むと感じます。
- ・幼保小での情報共有の場をつくる。お互いの日常での活動や交流の回数など
- ・担当の職員を決め、積極的に交流していけるようにした。
- ・園の職員数にゆとりを持たせ、小学校と会話できる時間を作る

設問 9:大人どうしの連携活動の実施回数

今年度、小学校職員と大人どうしが一緒に活動する「連携活動」は何回実施しましたか。(1つ選択)

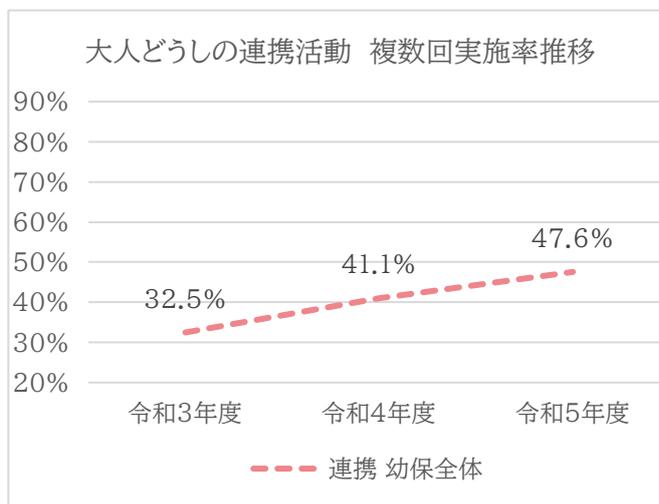
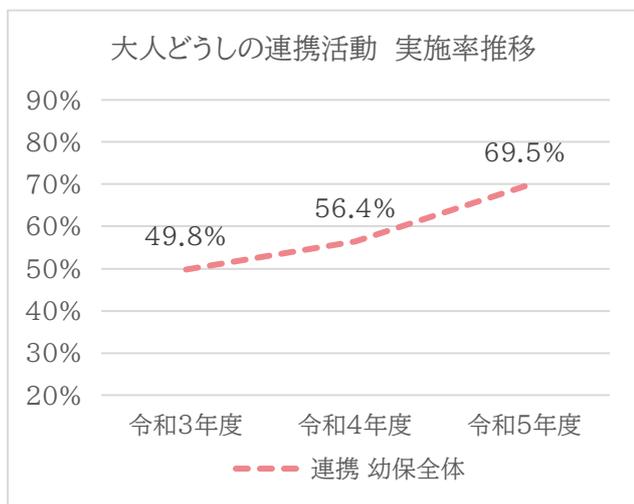
	公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
0回	5	150	32	7	194
1回	6	92	33	9	140
2回以上	47	189	45	22	303
合計	58	431	110	38	637



【分析】

・公立保育所は特に実施率が高く、交流活動を実施した割合が90%を超えている。また、2回以上実施した割合が80%以上であり、他の施設種と比べても高い結果となっている。

・令和3年度からの経過をみると、「少なくとも1回以上実施した割合」は+19.7ptと大幅に上昇した。また、複数回実施した割合は+15.1ptとなっている。



設問 10-1:大人どうしの連携活動の内容

大人どうしの連携活動の内容を教えてください。(複数選択可)

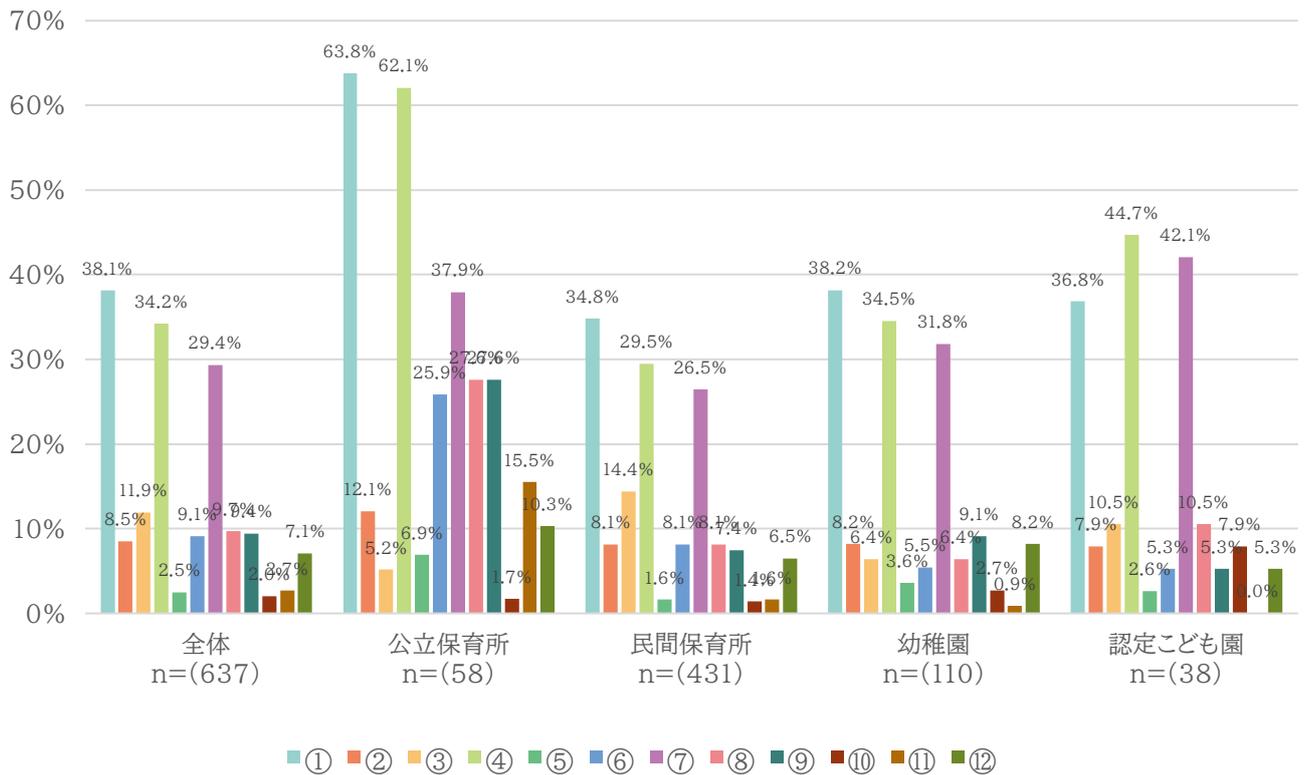
- ①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解・共有するための研修会
- ②お互いのカリキュラムを共有し合う研修会
- ③「よこはま☆保育・教育宣言」の内容について共有する研修会
- ④保育参観や授業参観
- ⑤協働で行う教材研究や環境構成
- ⑥架け橋プログラムリーフレットを使用した活動
- ⑦子どもどうしの交流活動のねらいや内容の検討
- ⑧小学校の授業や朝会、朝の時間等に園の保育者が参加
- ⑨園の活動に小学校の管理職・職員が参加
- ⑩小学校の保護者会・懇談会等に園の管理職・職員が参加
- ⑪園の保護者会・懇談会等に小学校の管理職・職員が参加
- ⑫その他

	公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
①	37	150	42	14	243
②	7	35	9	3	54
③	3	62	7	4	76
④	36	127	38	17	218
⑤	4	7	4	1	16
⑥	15	35	6	2	58
⑦	22	114	35	16	187
⑧	16	35	7	4	62
⑨	16	32	10	2	60
⑩	1	6	3	3	13
⑪	9	7	1	0	17
⑫	6	28	9	2	45

(%)

大人どうしの連携活動の内容

- ①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解・共有するための研修会
- ②お互いのカリキュラムを共有し合う研修会
- ③「よこはま☆保育・教育宣言」の内容について共有する研修会
- ④保育参観や授業参観
- ⑤協働で行う教材研究や環境構成
- ⑥架け橋プログラムリーフレットを使用した活動
- ⑦子どもどうしの交流活動のねらいや内容の検討
- ⑧小学校の授業や朝会、朝の時間等に園の保育者が参加
- ⑨園の活動に小学校の管理職・職員が参加
- ⑩小学校の保護者会・懇談会等に園の管理職・職員が参加
- ⑪園の保護者会・懇談会等に小学校の管理職・職員が参加
- ⑫その他



【分析】

・全体としては「①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解・共有するための研修会」が最も高く、「④保育参観や授業参観」、「⑦子どもどうしの交流活動のねらいや内容の検討」が次いで高くなっている。

・認定こども園では「④保育参観や授業参観」が最も高く、次いで高いのは「⑦子どもどうしの交流活動のねらいや内容の検討」、「①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解・共有するための研修会」であった。他の施設種と若干傾向が異なる。

設問10-2:連携活動の内容 その他記述

その他と回答した方に質問です。大人どうしが連携した内容について教えてください。(記述)

[抜粋]

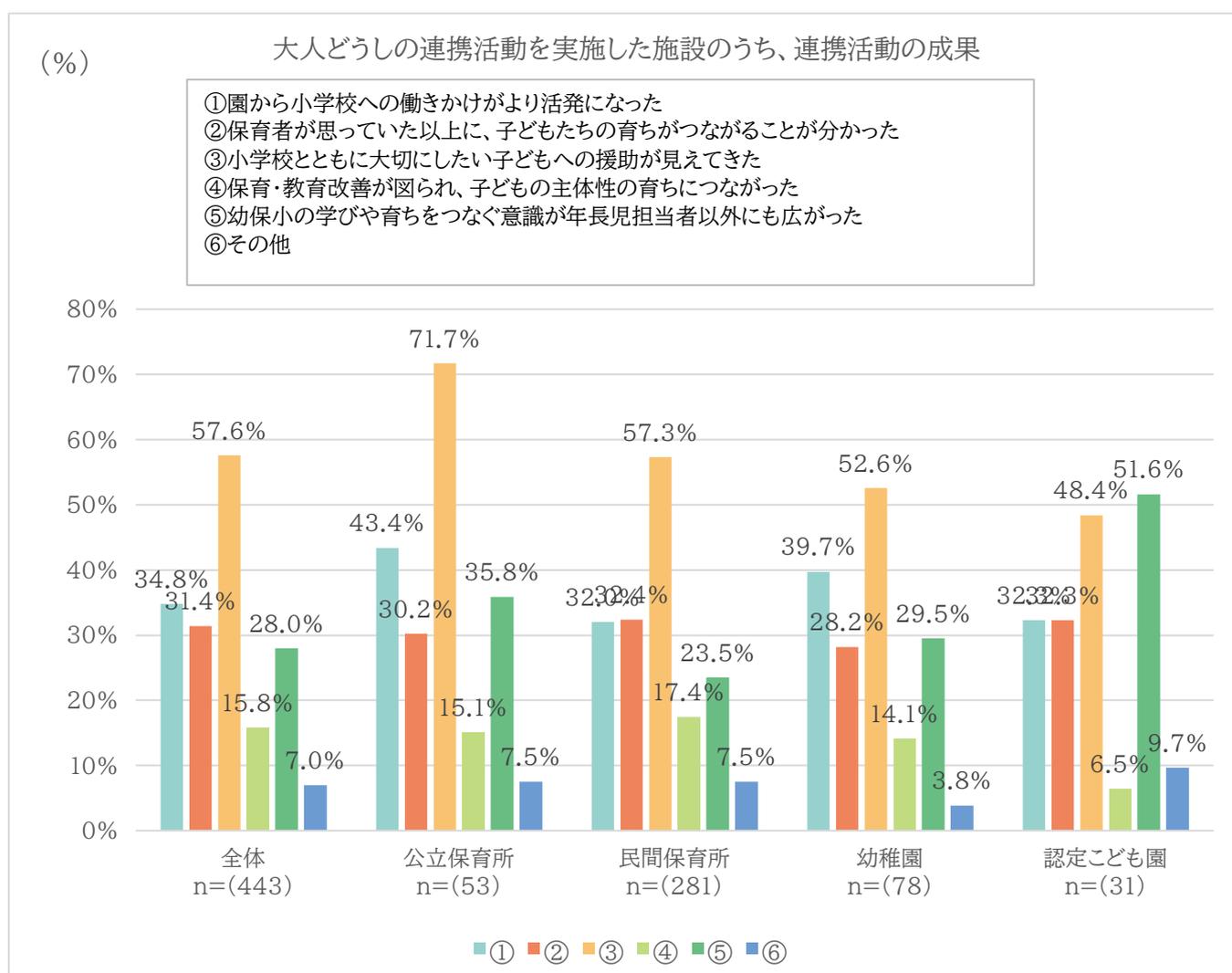
- ・小学校の中堅教員研修にて、1日保育を体験した。
- ・幼保小の職員の交流会を定期的に行った。
- ・幼保小教育交流事業として保護者も参加する子育て講演会を企画、参加。その後、幼保小の管理職と担当者が顔合わせと情報交換。
- ・保育園児が小学校を見学に行き、小学校はどんなところで小学生はどんな事をしているのか、体験できる機会を小学校に作ってもらっている。
- ・園長・校長会や幼保小の実行委員会での意見交換。
- ・合同津波避難訓練
- ・地域の幼保小会議
- ・地区別に集まり、状況報告等情報共有をおこなった。
- ・小学校の図書館を利用するために、学校側とどのような関りができるかを話した。
- ・公開授業後の振り返り

設問 11: 大人どうしの連携活動の成果

大人どうしが連携した成果として、当てはまるものを教えてください。(複数選択可)

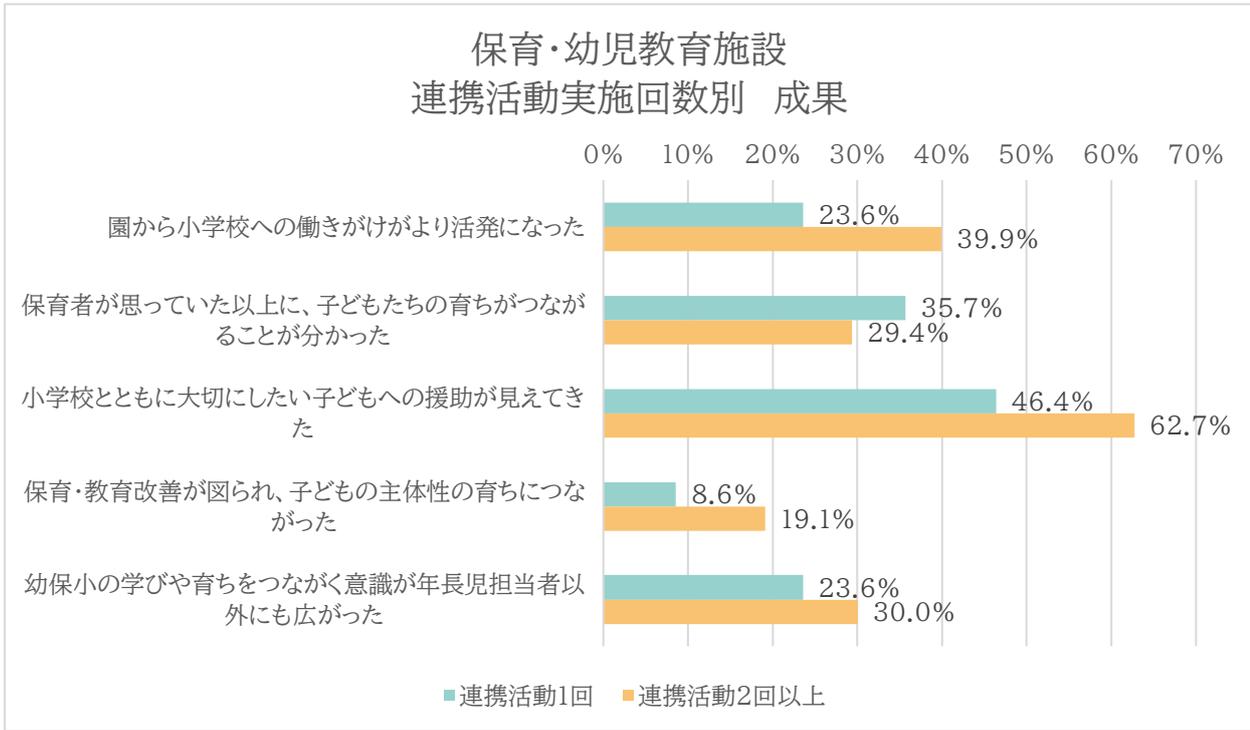
(n=設問 9 で「1 回」「2 回以上」の回答数)

	公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
①園から小学校への働きかけがより活発になった	23	90	31	10	154
②保育者が思っていた以上に、子どもたちの育ちがつながることが分かった	16	91	22	10	139
③小学校とともに大切にしたい子どもへの援助が見えてきた	38	161	41	15	255
④保育・教育改善が図られ、子どもの主体性の育ちにつながった	8	49	11	2	70
⑤幼保小の学びや育ちをつなぐ意識が年長児担当者以外にも広がった	19	66	23	16	124
⑥その他	4	21	3	3	31



【分析】

- ・「③小学校とともに大切にしたい子どもへの援助が見えてきた」を選択した割合が最も高く、大人どうしの連携活動を実施した施設の50%を超えている。認定こども園以外の施設で選択した割合が最も高く、どれも半数を超えている。
- ・認定こども園では、「⑤幼保小の学びや育ちをつなぐ意識が年長児担当者以外にも広がった」を選んだ割合が最も高く、半数を超えている。
- ・「②保育者が思っていた以上に、子どもたちの育ちがつながることが分かった」を除き、連携活動1回実施よりも、交流活動2回以上実施した方が、成果の選択率が高い。交流活動を複数回実施することで、成果を実感しやすいことが示唆される。



設問12:連携未実施の理由や課題

大人どうしの連携活動の実施ができなかった理由や、課題についてお聞かせください。(記述)

[抜粋]

- ・どのように実施したら良いかがわからない。小学校との交流はしたいと思っている。
- ・参加先が近隣ではない為、実際参加が難しいと感じた。人で不足でなかなか職員を参加させることが難しかった。
- ・3年間、コロナ感染の影響で幼保小関連の協議会が機能せず、代表者間での事前協議の場がない状態で管理職や担当教職員の交代で振出しに戻った感がある。
- ・保育園には子どもの数分の保育士しか配置されていない為、連携活動はとても大事だと考えています。連携要員を配置して頂けたら、もっと活動できるのと思います。
- ・普段の業務が忙しいこと、処遇改善に必要な研修を受ける時間を確保するため、中々時間をとることができなかった。
- ・感染症の予防と感染症拡大を防ぐため
- ・提携の園が姉妹園以外にないため
- ・小学校側からのアプローチ待ちになってしまった。
- ・区内で企画があり参加予定でしたが、自園の行事と重なってしまい参加できませんでした。
- ・年間の計画に入っていないことや、年度途中でやりたいという声は何度かあがったものの、時間の確保や方法がわからず、小学校も忙しいだろうという遠慮があったと思います。子どものためにはならない遠慮でした。

設問 13-1: 幼保小連携・接続の活動促進に効果的だと思う大人どうしの連携活動の内容

幼保小連携・接続の活動を促進※する上で、効果的だと思う大人どうしの連携活動を選択してください。(3 つまで選択可)

※カリキュラムの改善、環境構成の工夫、子どもへの支援の充実、保護者や地域の方とのコミュニケーションの円滑化などが該当します。

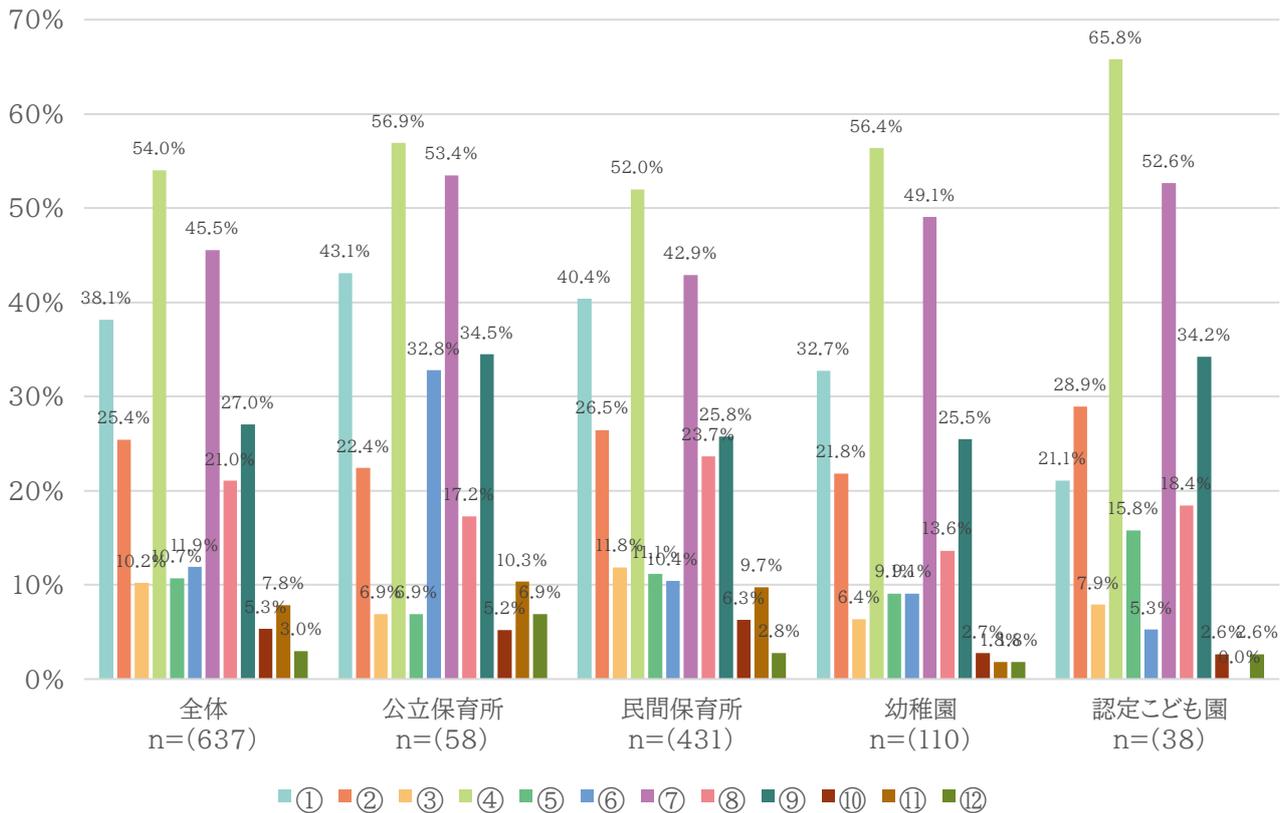
- ①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解・共有するための研修会
- ②お互いのカリキュラムを共有し合う研修会
- ③「よこはま☆保育・教育宣言」の内容について共有する研修会
- ④保育参観や授業参観
- ⑤協働で行う教材研究や環境構成
- ⑥架け橋プログラムリーフレットを使用した活動
- ⑦子どもどうしの交流活動のねらいや内容の検討
- ⑧小学校の授業や朝会、朝の時間等に園の保育者が参加
- ⑨園の活動に小学校の管理職・職員が参加
- ⑩小学校の保護者会・懇談会等に園の管理職・職員が参加
- ⑪園の保護者会・懇談会等に小学校の管理職・職員が参加
- ⑫その他

	公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
①	25	174	36	8	243
②	13	114	24	11	162
③	4	51	7	3	65
④	33	224	62	25	344
⑤	4	48	10	6	68
⑥	19	45	10	2	76
⑦	31	185	54	20	290
⑧	10	102	15	7	134
⑨	20	111	28	13	172
⑩	3	27	3	1	34
⑪	6	42	2	0	50
⑫	4	12	2	1	19

(%)

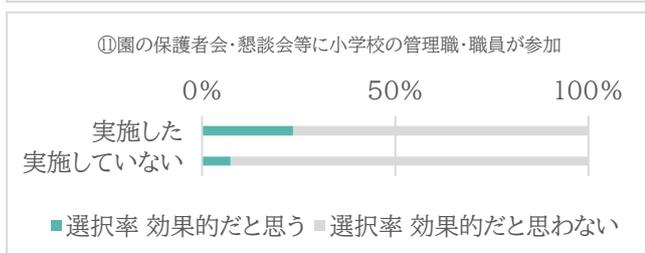
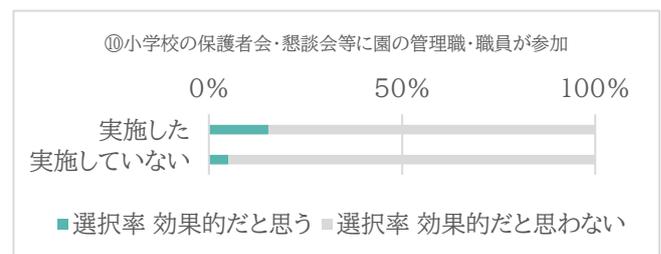
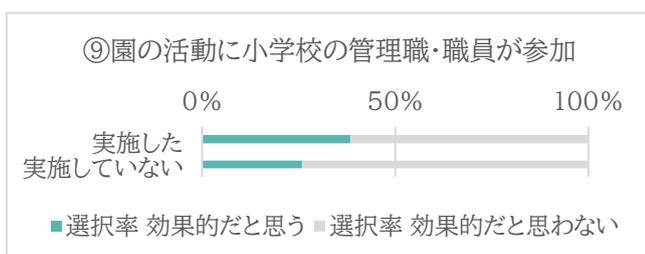
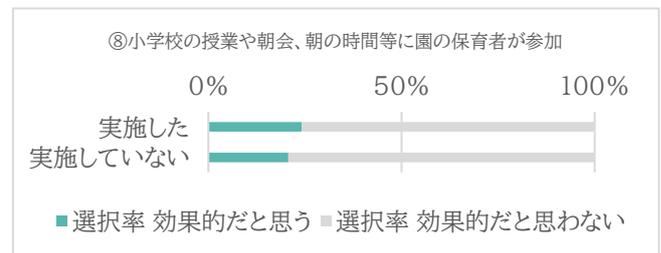
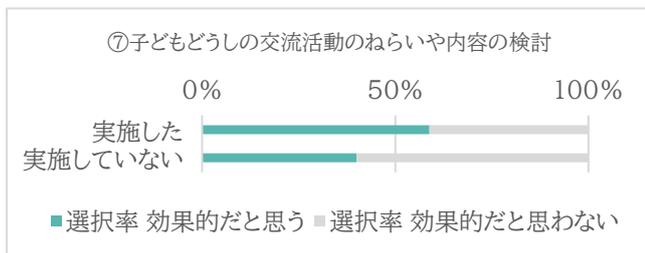
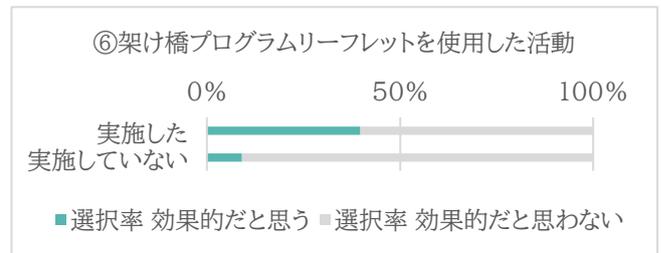
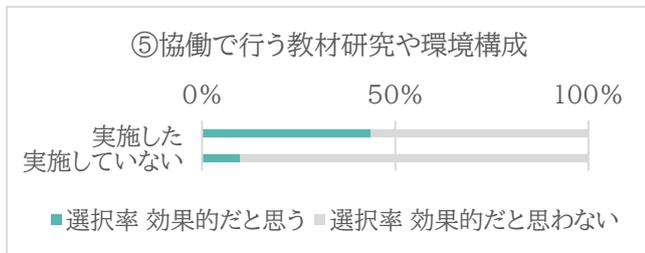
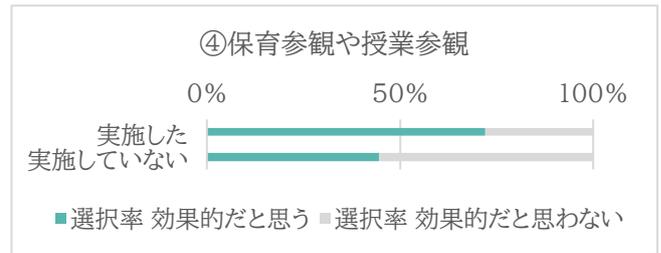
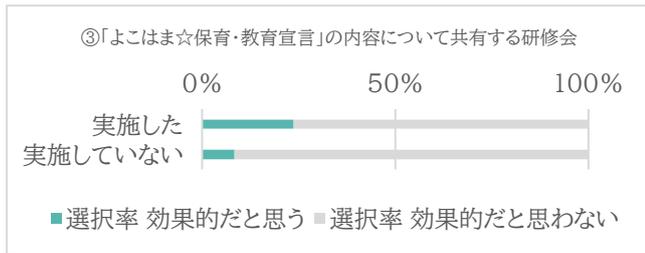
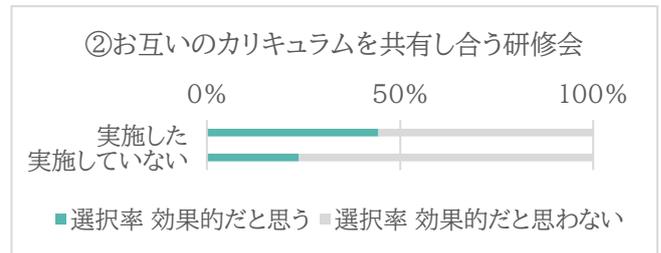
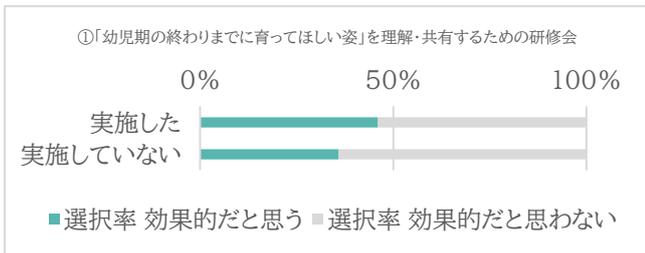
幼保小連携・接続に効果的だと思う 大人どうしの連携活動の内容

- ①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解・共有するための研修会
- ②お互いのカリキュラムを共有し合う研修会
- ③「よこはま☆保育・教育宣言」の内容について共有する研修会
- ④保育参観や授業参観
- ⑤協働で行う教材研究や環境構成
- ⑥架け橋プログラムリーフレットを使用した活動
- ⑦子どもどうしの交流活動のねらいや内容の検討
- ⑧小学校の授業や朝会、朝の時間等に園の保育者が参加
- ⑨園の活動に小学校の管理職・職員が参加
- ⑩小学校の保護者会・懇談会等に園の管理職・職員が参加
- ⑪園の保護者会・懇談会等に小学校の管理職・職員が参加
- ⑫その他



【分析】

連携活動促進のために効果的な連携活動を問う設問において、各活動を実施したグループと実施していないグループに分けると、実施した経験を持つグループの方が、効果的であると選択する割合が多い傾向にある。全ての項目においてこの傾向があてはまっている。



設問13-2:効果的だと思う連携活動 その他記述

その他と回答した方に質問です。幼保小連携・接続の活動を促進する上で、効果的だと思う大人どうしの連携活動の内容を教えてください。(記述)

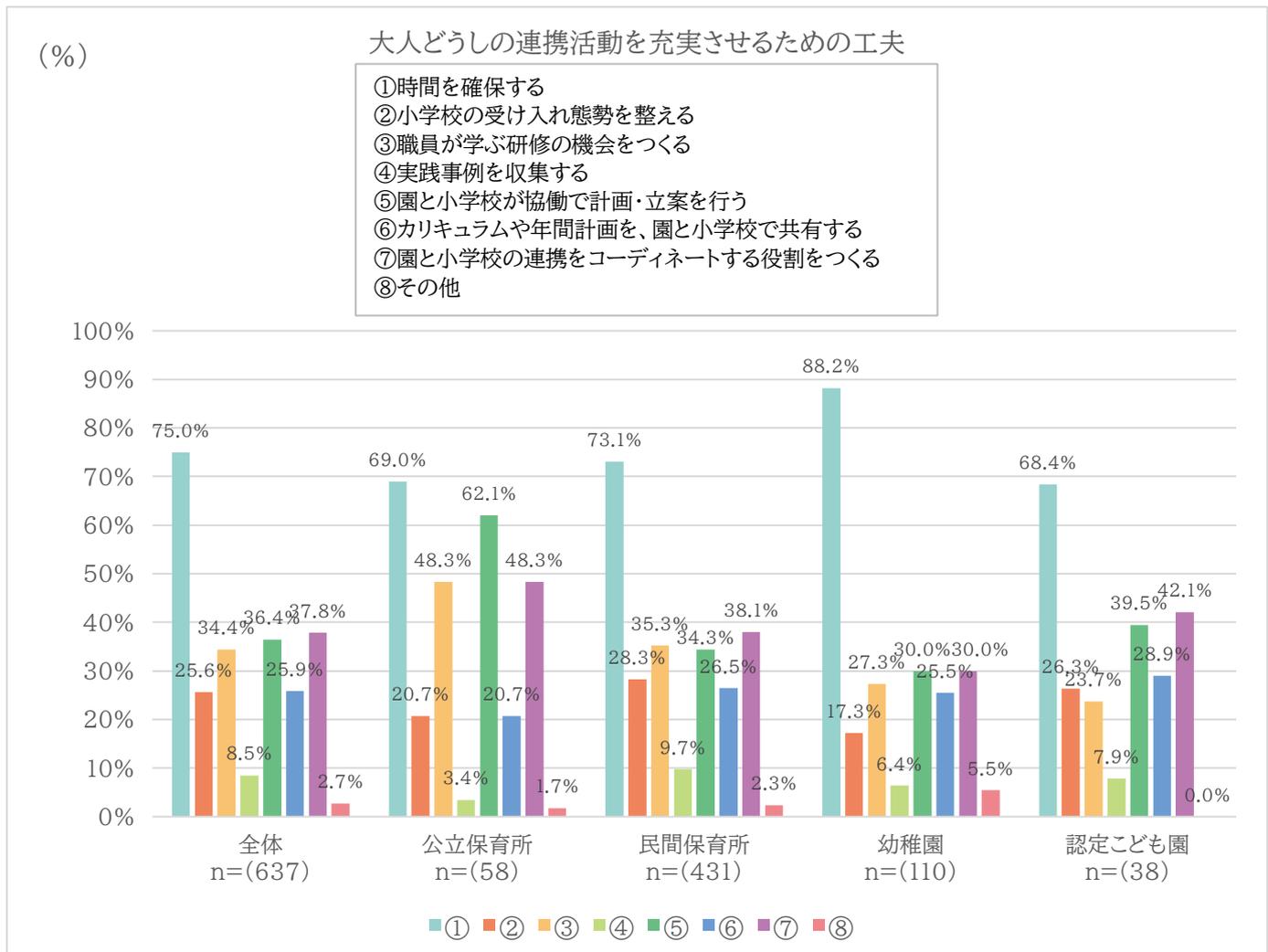
[抜粋]

- ・小学校と年長児の交流をさせていただきましたが、ねらいや内容の確認が双方で一緒にできるとより良かったと思いました。小学校側のやりたいと思っていること、保育園側の知りたいことや子どもが求めていることを意見を合わせてから進めていけると、よりよい交流になると思いました。
- ・小学校と園が相談しやすい連携を取れるようにしたい。地域ごとで担当小学校を決めてあれば保育園側から働きかけがしやすい。
- ・小学校の先生に夏休みを使って園に数日来ていただきたい
- ・懇親、意見交換会
- ・幼保小のおいての活動内容を知る機会を伝え合う機会をつくる
- ・職員交流
- ・職員同士がコミュニケーションをとる機会を作る(一緒に簡単な行事を計画・実施する等)
- ・乳幼児の育ちや保育者の支援の方法を知る
- ・園や学校見学交流
- ・小学校の中堅クラスの先生方に異業種先への研修がある様ですが、その研修で1日の流れを、保育参加の型で見せて頂けることは、幼児教育の理解へとつながりました。

設問 14-1:大人どうしの連携活動を充実させるための工夫

大人どうしの連携活動をより充実させるためには、どのような工夫が必要と考えますか。(3 つまで選択可)

	公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
①時間を確保する	40	315	97	26	478
②小学校の受け入れ態勢を整える	12	122	19	10	163
③職員が学ぶ研修の機会をつくる	28	152	30	9	219
④実践事例を収集する	2	42	7	3	54
⑤園と小学校が協働で計画・立案を行う	36	148	33	15	232
⑥カリキュラムや年間計画を、園と小学校で共有する	12	114	28	11	165
⑦園と小学校の連携をコーディネートする役割をつくる	28	164	33	16	241
⑧その他	1	10	6	0	17



【分析】

・「①時間を確保する」を選んだ割合が最も高く、全体で 75%となっている。どの施設種でも最も高かった。

設問14-2:連携活動充実のための工夫 その他記述

その他と回答した方に質問です。大人どうしの連携活動充実のための工夫について教えてください。(記述)

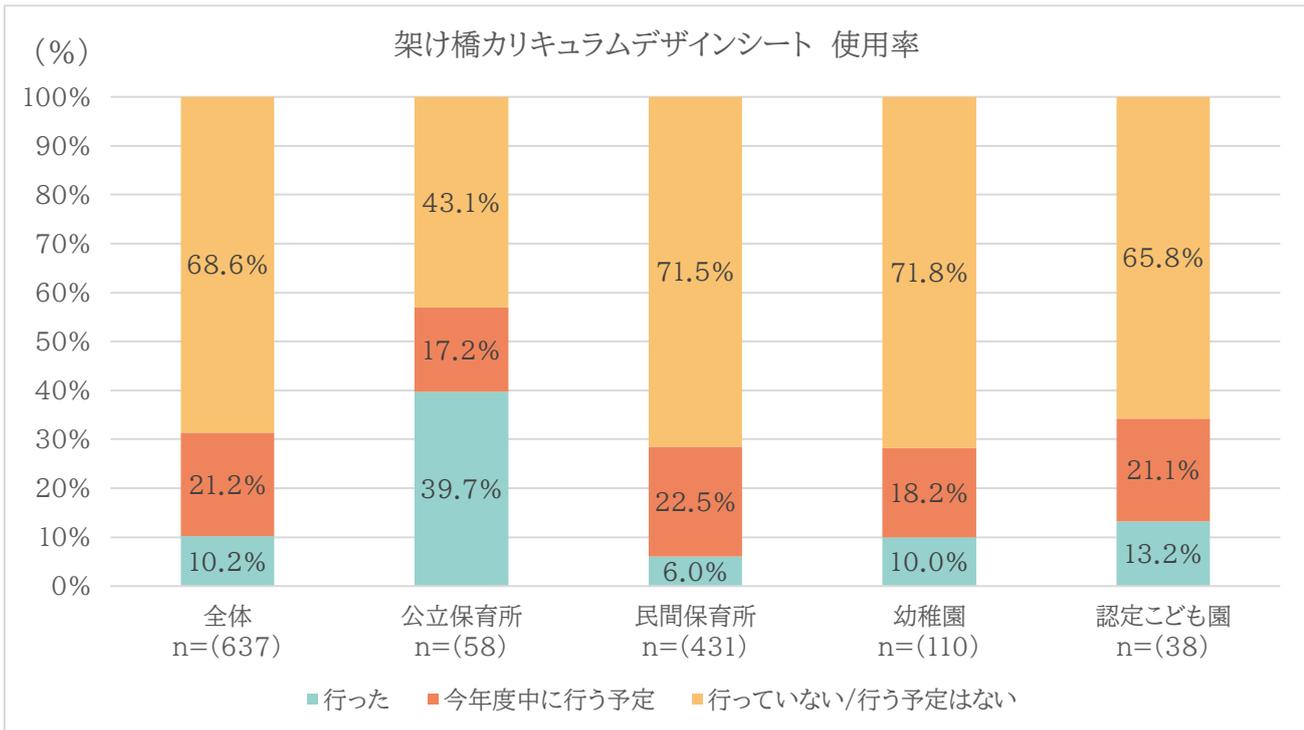
[抜粋]

- ・年長児担任ということにこだわらず、広く浅く関わられるような環境を作り、顔の見える関係づくりとなるようにすること。まずは、責任職が無理のない形で関わられる様つないでいくこと。
- ・小学校の先生方の負担にならないような時間の取り方。
- ・小学校側の多忙さを解消すること。
- ・小学校同士でどのような連携をとっているか確認しエリアによる差異をなくしてほしい。
- ・連携要員の配置が認められたら、もっと活動計画を作り、実施までいけると思う
- ・懇親会意見交換会
- ・職員体制を充実させる
- ・子どもの育ちを共有し合い、育ちがつながっていくような教材研究、実践事例を共有していくことが大切に感じる
- ・職員同士の互いの活動等の情報交換、互いの施設の見学
- ・お互いに授業、保育活動に参加しあう

設問 15: 架け橋カリキュラムデザインシートの使用有無

・今年度、架け橋カリキュラムデザインシートを使用した研修等を行いましたか。(1つ選択)

	公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
行った	23	26	11	5	65
今年度中に行う予定	10	97	20	8	135
行っていない/ 行う予定はない	25	308	79	25	437



【分析】

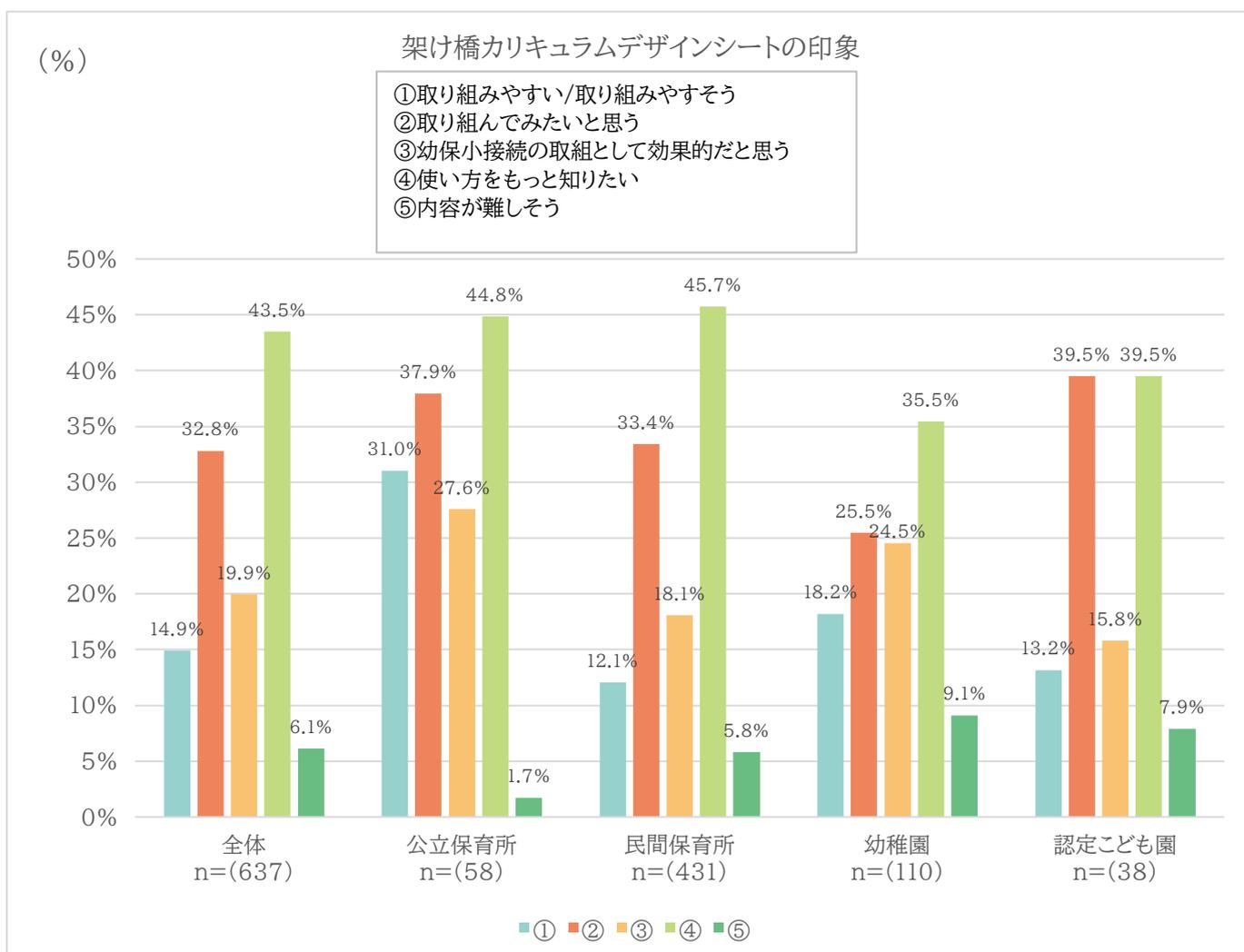
・既に「行った」と回答した割合は、全体の約 10%であった。「今年度中に行う予定」と回答した割合と合わせると、約 30%となる。

・公立保育所では他の施設種と比較して「行った」と回答した割合が高く、39.7%であった。「今年度中に行う予定」を合わせると半数以上となる。

設問 16: 架け橋カリキュラムデザインシートの印象

架け橋カリキュラムデザインシートの印象について、あてはまるものを教えてください。(複数選択)

	公立保育所	民間保育所	幼稚園	認定こども園	全体
①取り組みやすい/取り組みやすそう	18	52	20	5	95
②取り組んでみたいと思う	22	144	28	15	209
③幼保小接続の取組として効果的だと思う	16	78	27	6	127
④使い方をもっと知りたい	26	197	39	15	277
⑤内容が難しそう	1	25	10	3	39

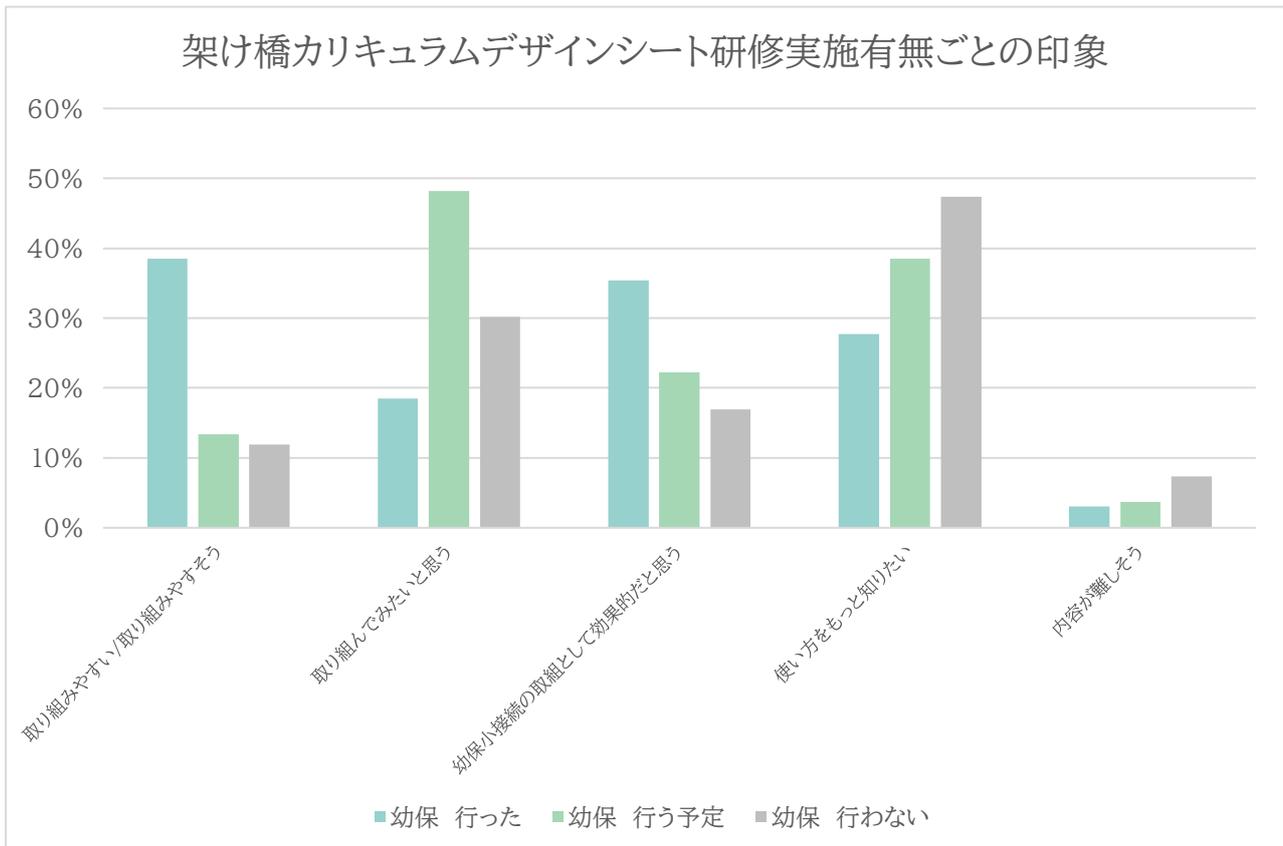


【分析】

・「①取り組みやすい/取り組みやすそう」と回答している回答者の内訳をみると、架け橋カリキュラムデザインシートを使用した研修をすでに「行った」と回答した割合が最も高かった。行う前よりも、行ったあとに取り組みやすさを実感していることが示唆される。

・「③幼保小接続の取組として効果的だと思う」と回答している回答者の内訳をみると、架け橋カリキュラムデザインシートを使用した研修をすでに「行った」と回答した割合が最も高かった。研修を行った後に効果を実感するものであることが示唆される。

・「④使い方をもっと知りたい」と回答した割合が最も高いが、回答者の内訳をみると、架け橋カリキュラムデザインシートを使用した研修を「行わない」と回答している割合が最も高かった。研修を行う予定はないが、情報を得たいと考えている園が多い可能性がある。



設問17: 架け橋カリキュラムデザインシートの感想

架け橋カリキュラムデザインシートを使用した感想や、使用する上での課題などについてお聞かせください。(記述)

[抜粋]

- ・研修時間を確保するのが難しい中、短時間で実のある研修内容にするにはどうしたらいいのか、実際の研修の様子やデザインシートのもっと詳細な使い方を知りたい。
- ・使い方の参考例など具体的な取り組みの様子がもっと周知されるともっと使ってみようという前向きな気持ちになる。(職員への取り組みを促す上でも)
- ・話し合ったことをデザインシートに残し、目に見える形に出来たことは、今年度の成果だと思います。カリキュラムを双方で作成することは、子どもの理解や意識を小学校と共有することにも大きく繋がり、1年間の交流の目的や方法、目指すものを統一させてから交流を始めることが出来ました。
- ・年間や月のカリキュラムがあり、そしてアプローチカリキュラムがあり、その時々にはドキュメンテーションで保護者・職員間で発信している。これ以上このシートを作ってみようと働きかけるのをためらってしまう。
- ・カットや吹き出しのコメントによってわかりやすいシートになっている。
- ・まだ使用していないので、効果的な使い方を知り、職員で共有していきたい。
- ・今回、お互いがシートについて分かっていたので職員研修をスムーズに行なえました。活用の仕方の動画もあり参考になりました。
- ・架け橋カリキュラムの研修を受けてみたかった。
- ・幼・保・小であつまった10人のグループワークを通して情報交流するにあたり有効に活用でき、意見をまとめていく過程でも役だった。
- ・画像などが添付できるとわかりやすいかもしれません。

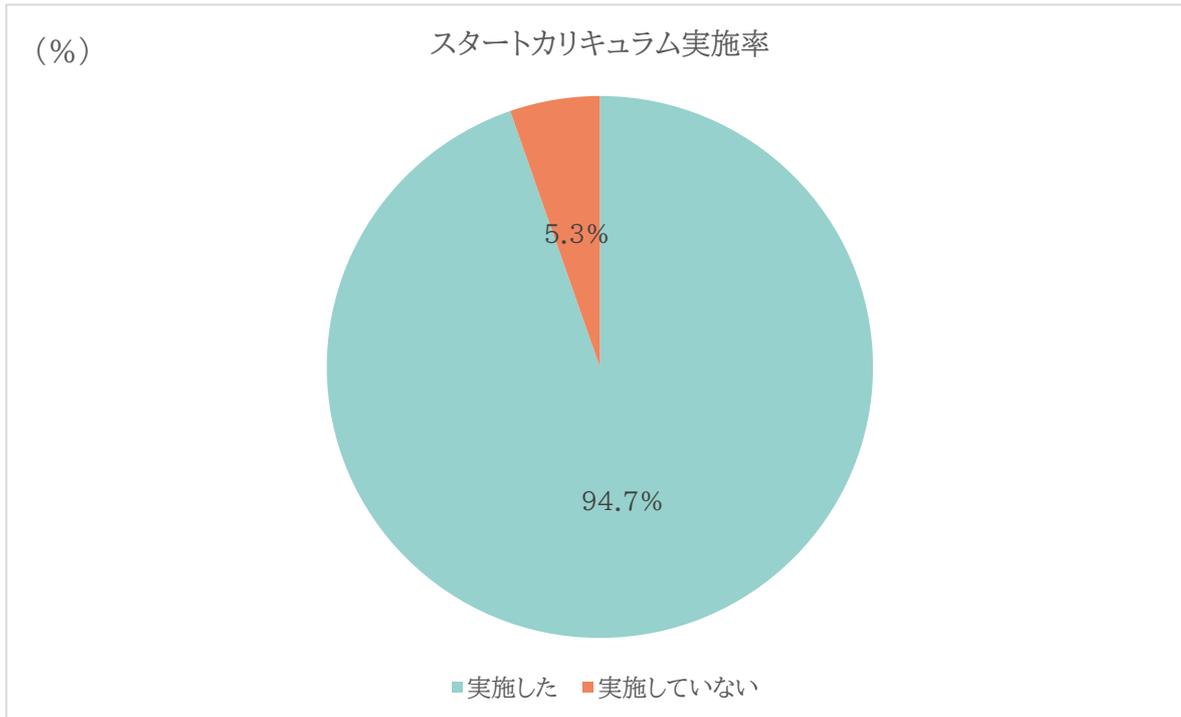
小学校編

□小学校 回答率:100% 全 338 校

設問 1:スタートカリキュラムの実施有無

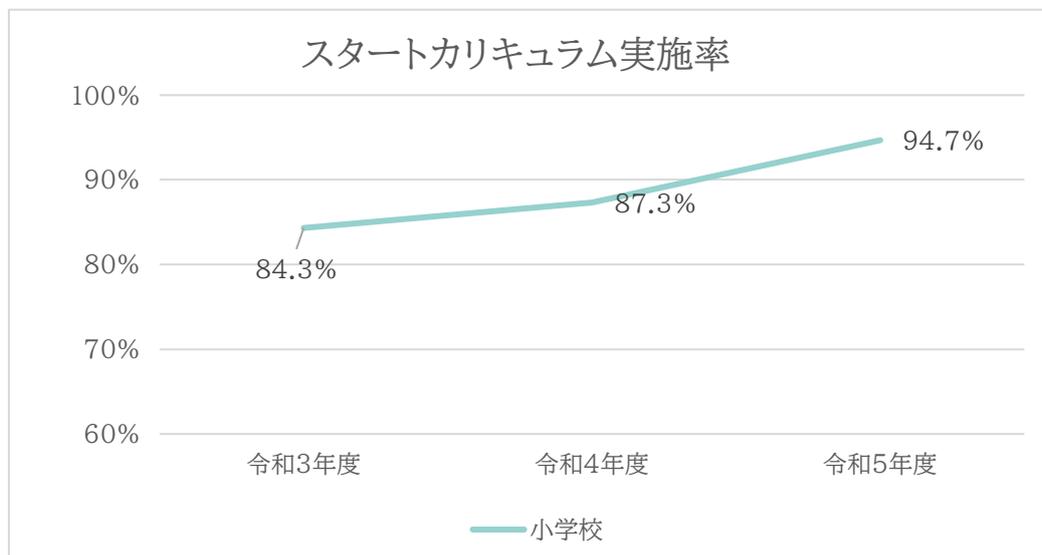
今年度、スタートカリキュラムを実施しましたか。(1つ選択)

	校数
実施した	320
実施していない	18



【分析】

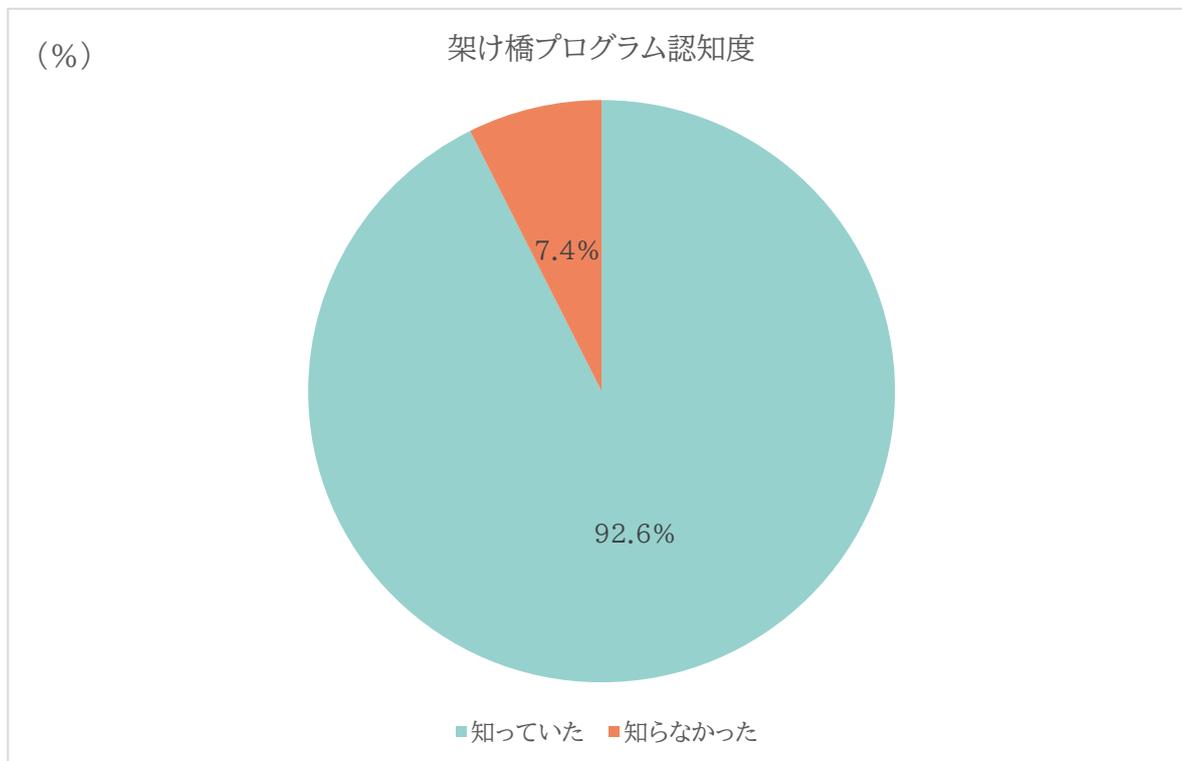
・令和5年度は9割を超える学校でスタートカリキュラムを実施しており、令和3年度からの経過をみると10.4pt上昇している。この分野において積極的な取り組みが行われていることが分かる。



設問 2: 架け橋プログラムの認知度

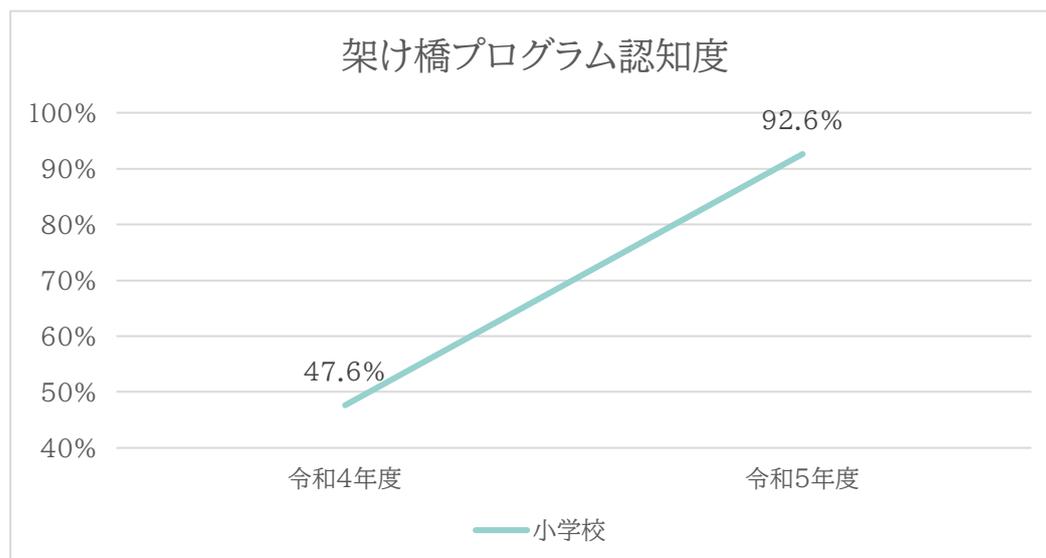
令和 4 年度から、「幼保小の架け橋プログラム」が始まったことを知っていましたか。(1 つ選択)

	校数
知っていた	313
知らなかった	25



【分析】

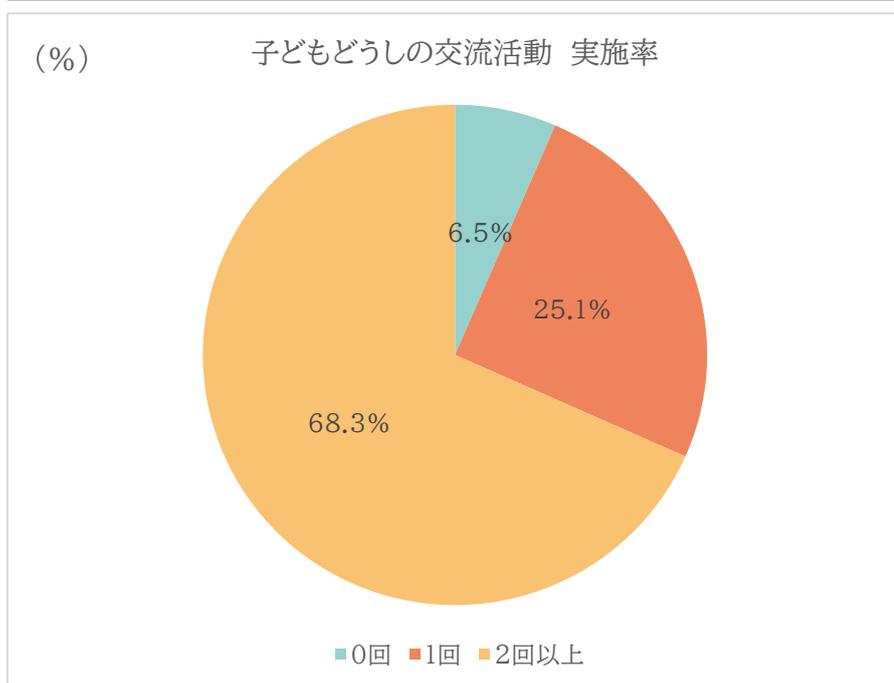
・令和5年度は認知している割合が9割を超えた。令和4年度と比べると、+45ptと認知度が大幅に上昇している。



設問 3:子どもどうしの交流活動の実施回数

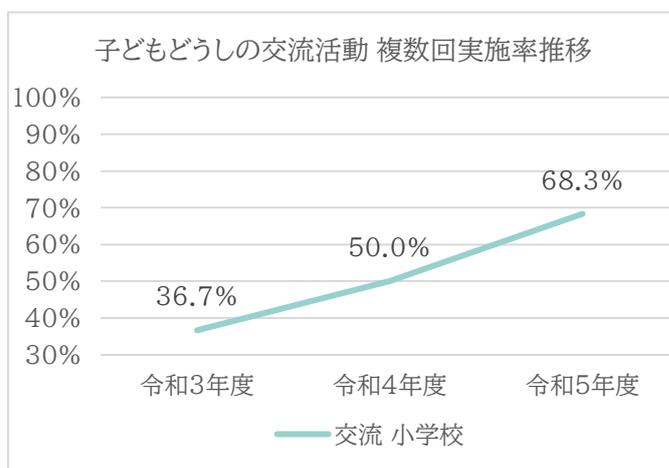
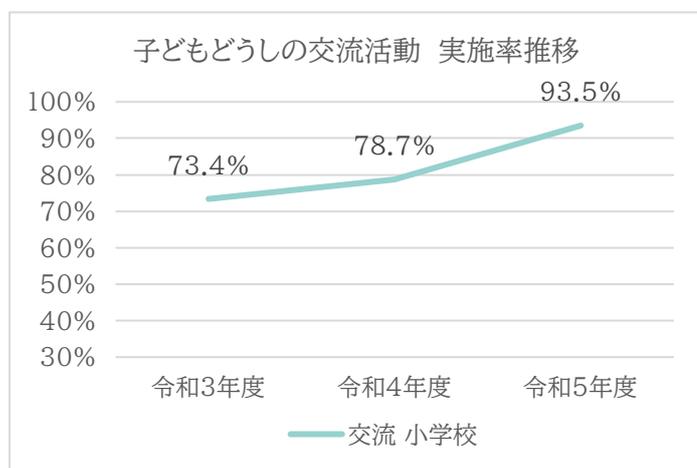
今年度、園の子どもと自校の子どもが、子どもどうしが一緒に活動する「交流活動」は何回実施しましたか。(1つ選択)

	0回	1回	2回以上	合計
回答数	22	85	231	338



【分析】

- ・2回以上実施した割合が最も高かった。
- ・令和3年度からの比較をみると、「少なくとも1回以上実施した割合」は+20.1ptと大幅に上昇した。また、複数回実施した割合は+31.6ptとなっている。

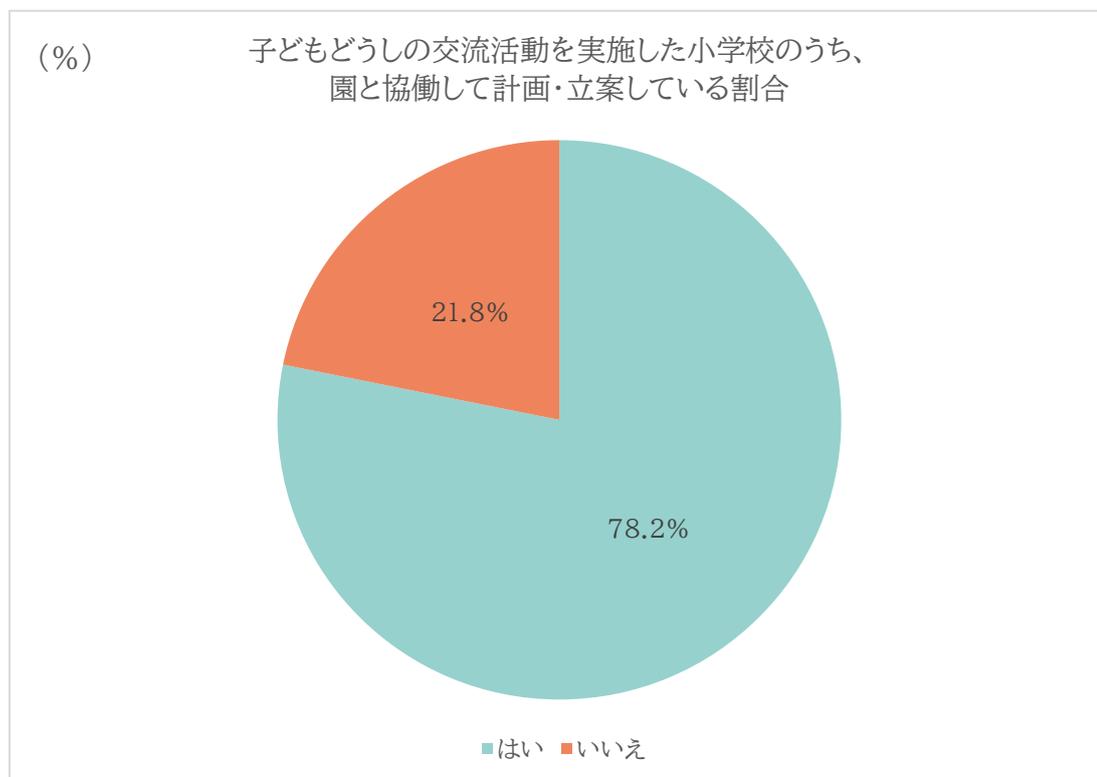


設問 4: 交流活動の計画・立案の協働有無

子どもどうしの交流活動の内容は、園と協働して計画・立案しましたか。(1つ選択)

(n=設問3で「1回」「2回以上」の回答数)

	はい	いいえ	合計
回答数	247	69	316



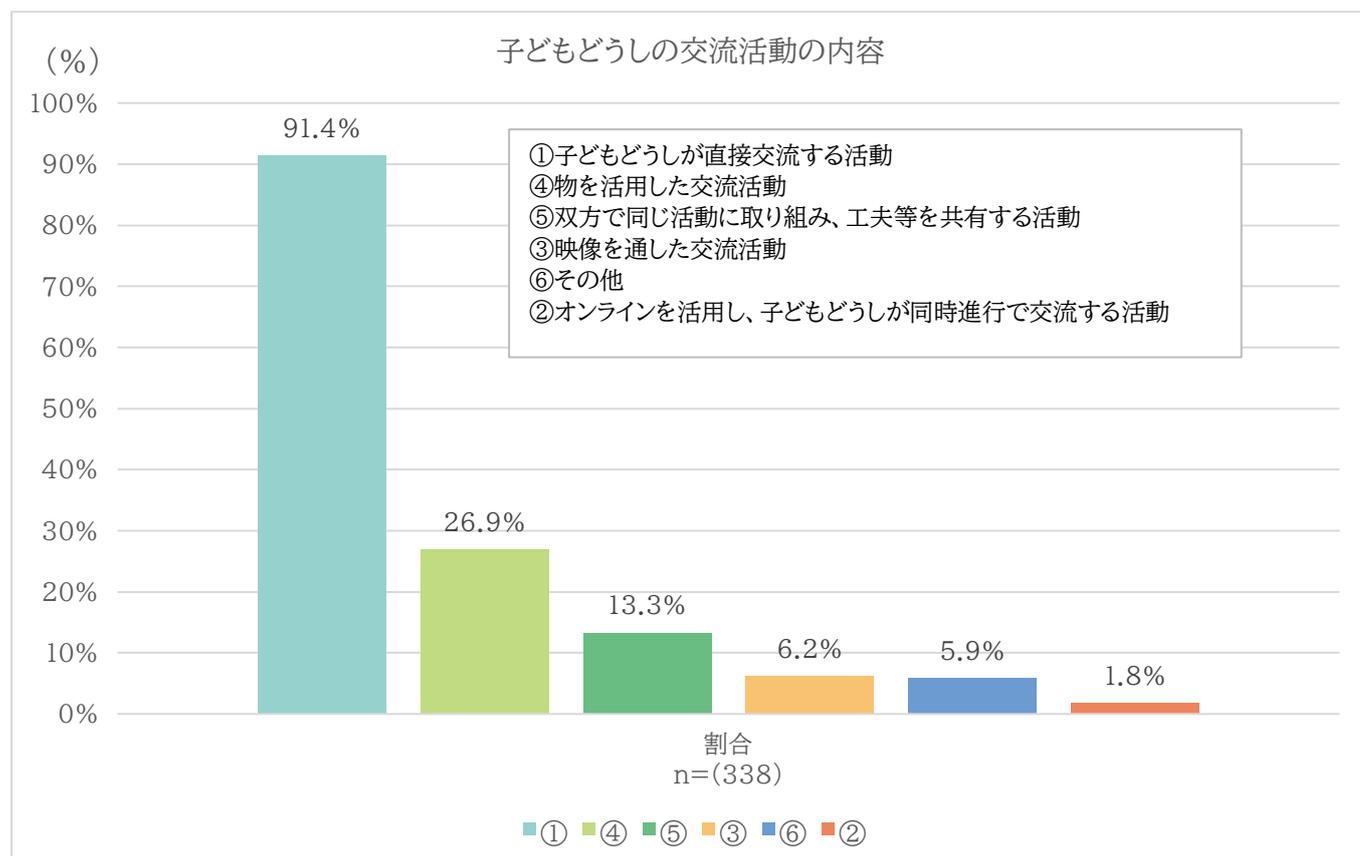
【分析】

交流活動を行った小学校のうち、80%弱が園と協働して計画・立案したと回答した。

設問 5-1:子どもどうしの交流活動の内容

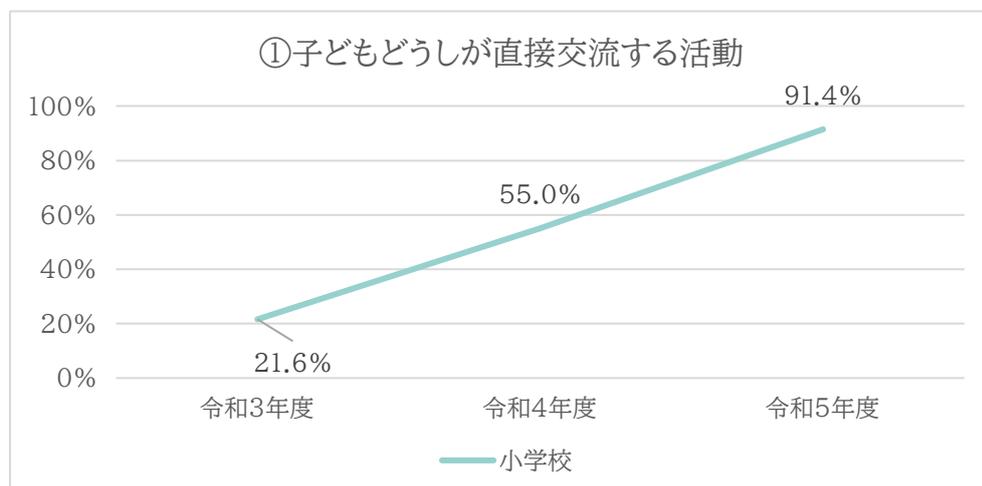
子どもどうしの交流活動の内容を教えてください。(複数選択可)

	①子どもどうしが直接交流する活動	②オンラインを活用し、子どもどうしが同時進行で交流する活動	③映像を通じた交流活動	④物を活用した交流活動	⑤双方で同じ活動に取り組み、工夫等を共有する活動	⑥その他
回答数	309	6	21	91	45	20



【分析】

・「①子どもどうしが直接交流する活動」を選んだ割合が最も高く、9割を超えている。令和3年度と比較すると、大幅に高くなっており、69.8pt 上昇した。子どもたちが直接交流できる機会が急増したことが分かる。



設問5-2:交流活動の内容 その他記述

その他と回答した方に質問です。子どもどうしが交流した内容について教えてください。(記述)

[抜粋]

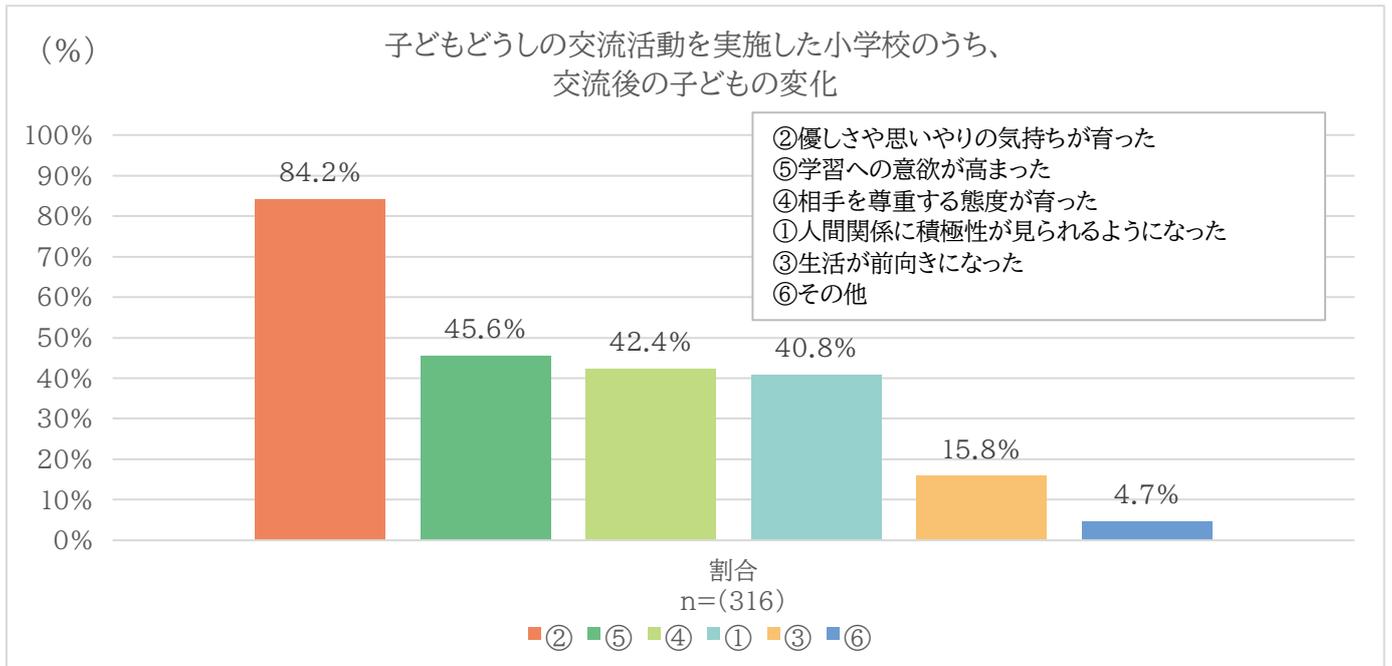
- ・本校に幼稚園・保育園の子どもたちを招いて、学校探検をしたり、レクなどをして遊ぶ活動をした。
- ・5年生が年長児と一緒に栽培活動を行った。
- ・小学校クイズ、じゃんけん列車、小学校の体験、学校たんけんなど
- ・音楽交流
- ・手紙やあさがおの種のプレゼント
- ・プラットフォーム交流事業を保育園と一緒にいった
- ・1年生の児童がゲームを考えて、年長児と一緒に遊んだり、お店屋さんを体験してもらったりして、子ども同士の交流を行った。
- ・ゲーム 学校探検 むかしあそび
- ・学校のことを教える、一緒に遊ぶ
- ・読み聞かせ会で一緒に鑑賞

設問 6-1:子どもどうしの交流活動後 子どもの変化

子どもどうしの交流活動を経て、子どもにどのような変化がありましたか。(複数選択可)

(n=設問 3 で「1 回」「2 回以上」の回答数)

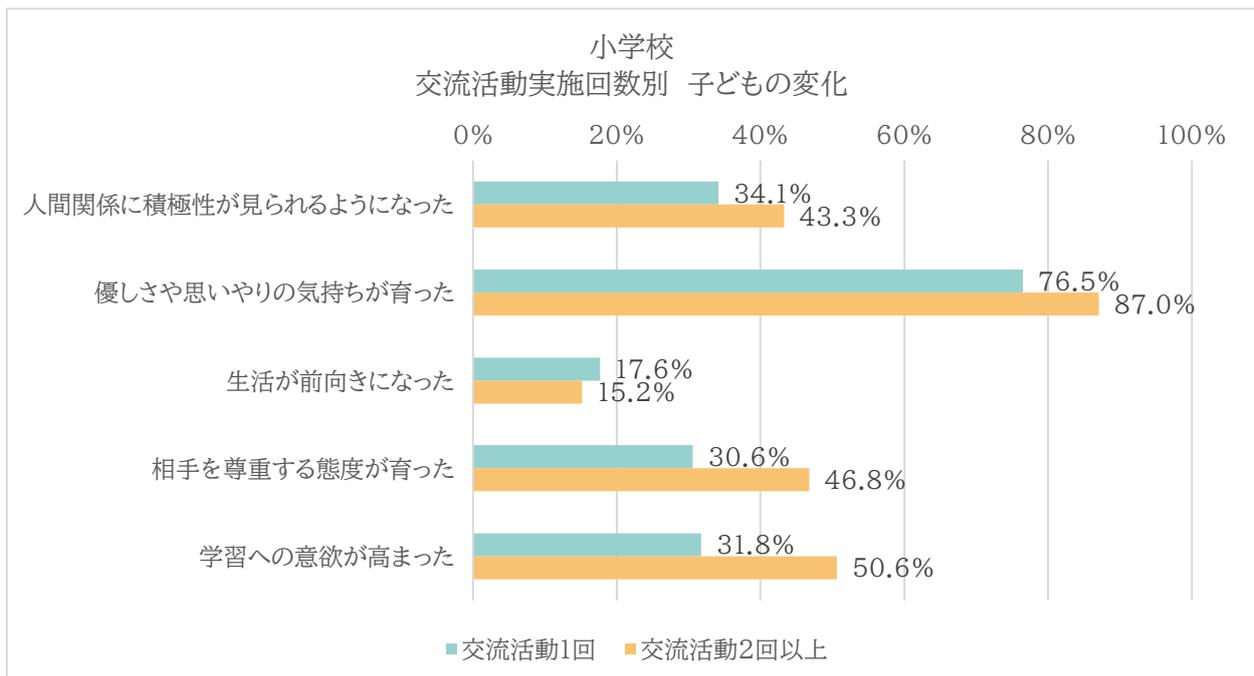
	①人間関係に積極性が見られるようになった	②優しさや思いやりの気持ちが育った	③生活が前向きになった	④相手を尊重する態度が育った	⑤学習への意欲が高まった	⑥その他
回答数	129	266	50	134	144	15



【分析】

・「②優しさや思いやりの気持ちが育った」を選んだ割合がもっとも高く、80%を超えている。

・「③生活が前向きになった」を除いて、交流活動 1 回実施よりも、交流活動 2 回以上実施の方が、子どもの変化の選択率が高い。交流活動を複数回実施することで、子どもたちに起こる変化も実感しやすいことが示唆される。

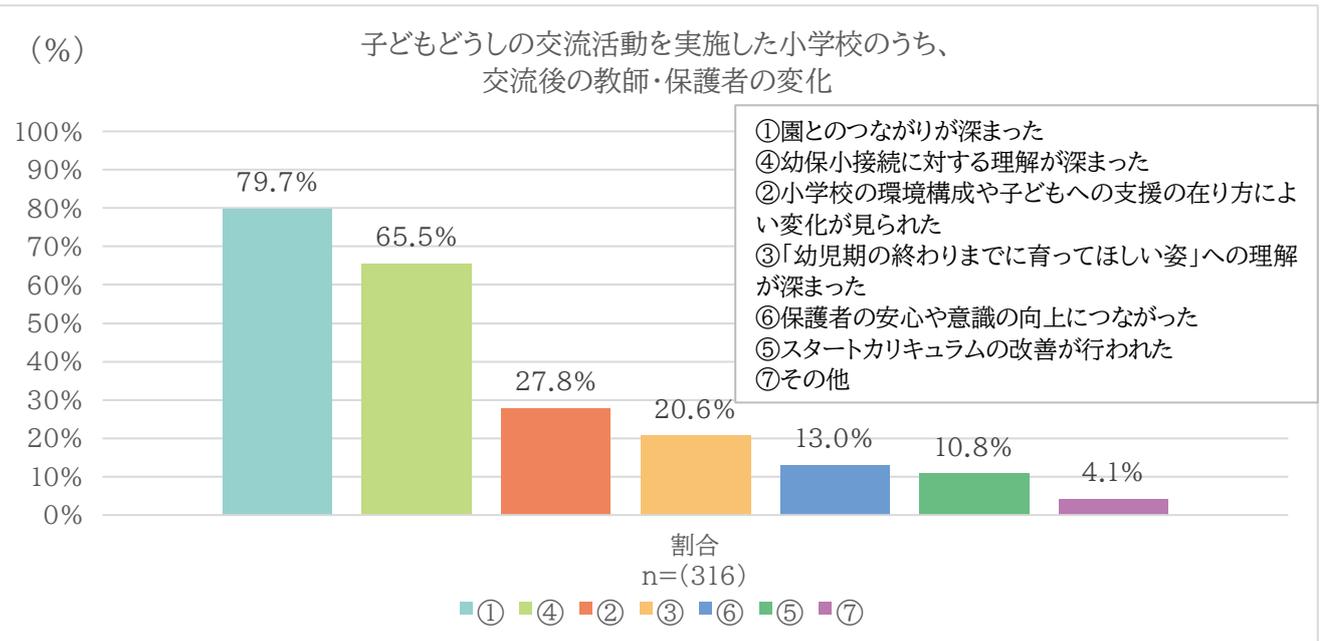


設問 6-2:子どもどうしの交流活動後 大人の変化

子どもどうしの交流活動を経て、教師・保護者等にどのような変化がありましたか。(複数選択可)

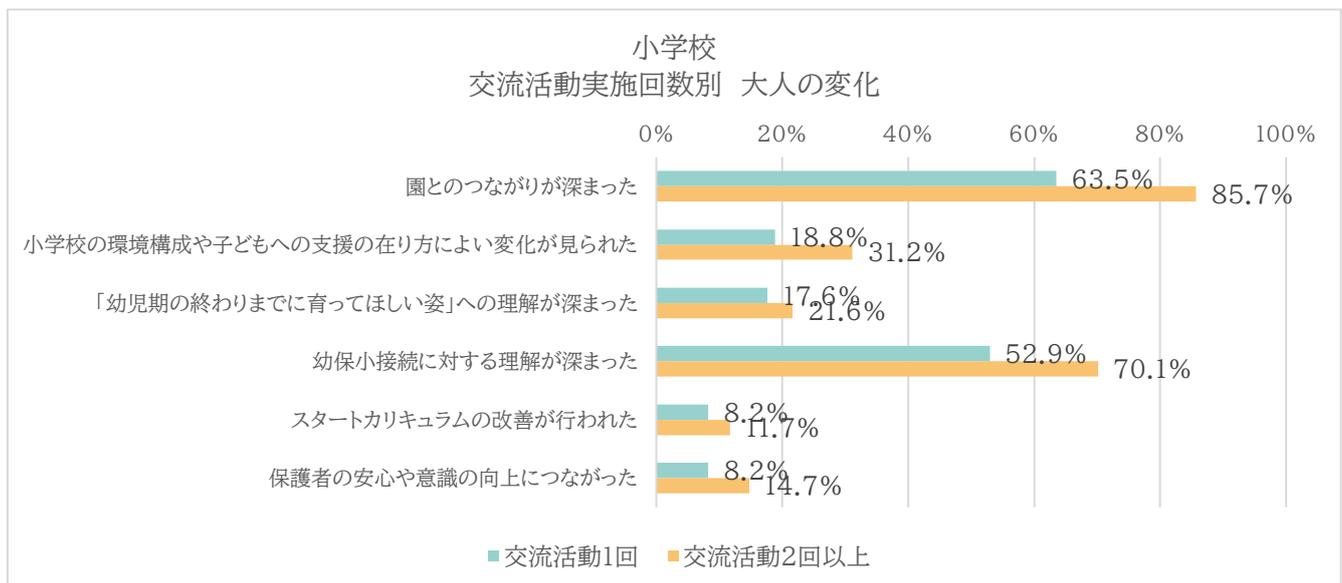
(n=設問 3 で「1 回」「2 回以上」の回答数)

	①園とのつながりが深まった	②小学校の環境構成や子どもへの支援の在り方により変化が見られた	③「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」への理解が深まった	④幼保小接続に対する理解が深まった	⑤スタートカリキュラムの改善が行われた	⑥保護者の安心や意識の向上につながった	⑦その他
回答数	252	88	65	207	34	41	13



【分析】

- ・「①園とのつながりが深まった」「④幼保小接続に対する理解が深まった」を選んだ割合が高く、半数を超えている。
- ・交流活動 1 回実施よりも、交流活動 2 回以上実施の方が、大人の変化の選択率が高い。交流活動を複数回実施することで、大人に起こる変化も実感しやすいことが示唆される



設問7:交流活動未実施の理由や課題

子どもどうしの交流活動の実施ができなかった理由や、課題についてお聞かせください。

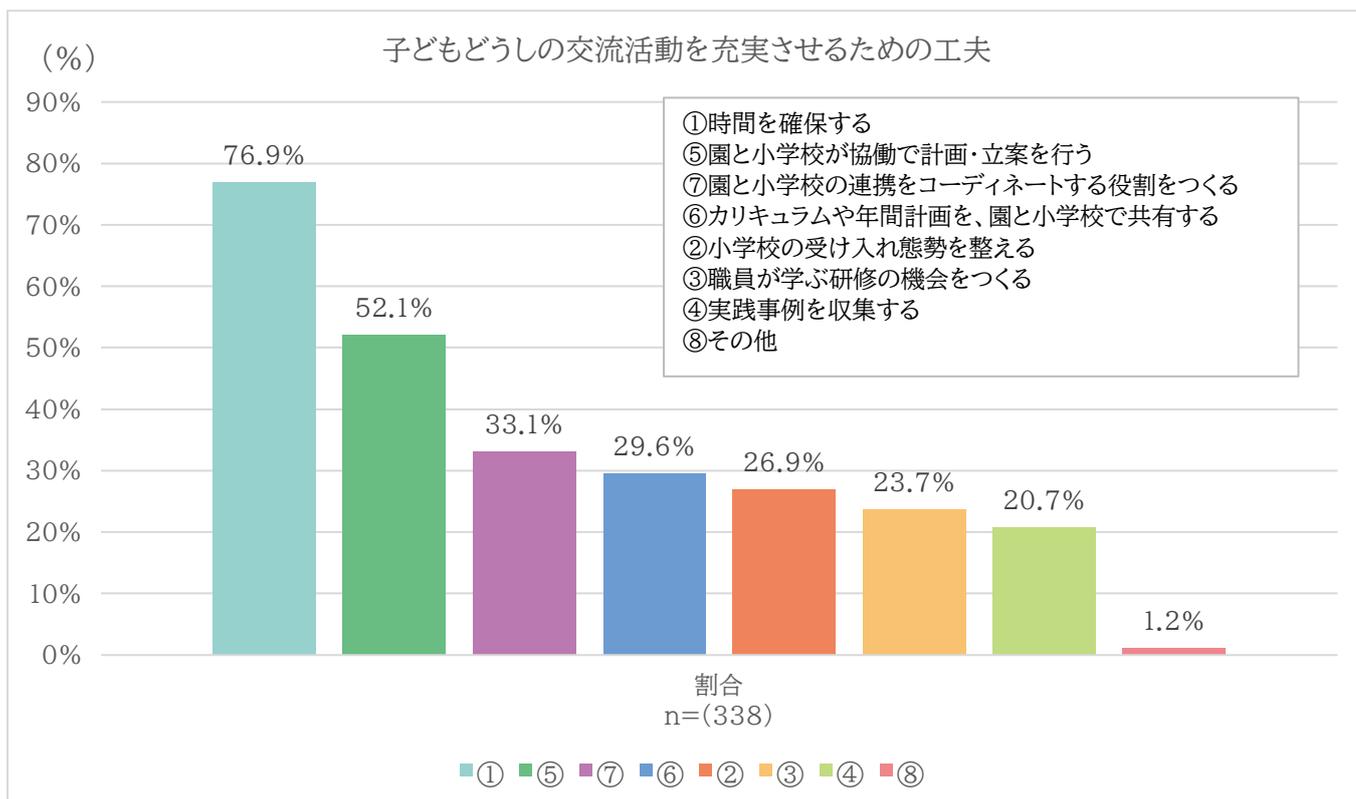
[抜粋]

- ・コロナで交流が途切れてしまった。今後検討しようと考えている。
- ・年度はじめはまだ感染症の状況がどうなるか判断しかねたので、計画を立てることができなかった。
- ・校内体制が整っていなかったため コロナ禍での停滞からの脱却計画が乏しかった
- ・コロナ禍の影響のため
- ・インフルエンザ、コロナ感染症予防のため
- ・予定していた日程(12月)にインフルエンザで学級閉鎖が相次いだため
- ・受け入れ態勢を整えることができなかった。近隣の保育園や幼稚園と連絡をとり、交流できるようにしっかり引き継いでいく必要がある。
- ・日程が合わなかったため
- ・今年度は、11月から新校舎への移転作業も入るため、新校舎移転後の1,2月に交流活動をしようとしているため。
- ・学習活動の内容で、年明けに交流できそうな活動を予定しているから。

設問 8-1:子どもどうしの交流活動を充実させるための工夫

子どもどうしの交流活動をより充実させるためには、どのような工夫が必要と考えますか。(3 つまで選択可)

	①時間を確保する	②小学校の受け入れ態勢を整える	③職員が学ぶ研修の機会をつくる	④実践事例を収集する	⑤園と小学校が協働で計画・立案を行う	⑥カリキュラムや年間計画を、園と小学校で共有する	⑦園と小学校の連携をコーディネートする役割をつくる	⑧その他
回答数	260	91	80	70	176	100	112	4



【分析】

・「①時間を確保する」が最も高く 76.9%、次いで「⑤園と小学校が協働で計画・立案を行う」を選んだ割合が高く、50%を超えている。

設問8-2:交流活動充実のための工夫 その他記述

その他と回答した方に質問です。子どもどうしの交流活動充実のための工夫について教えてください。(記述)

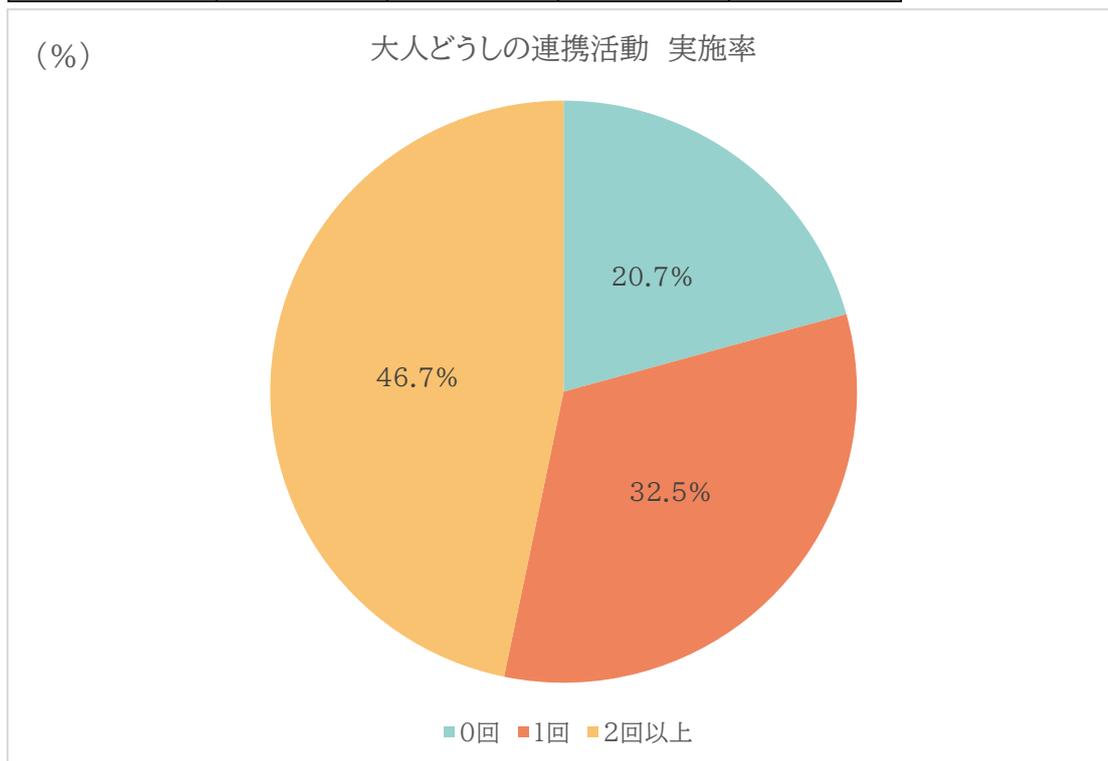
[抜粋]

- ・幼保小連携の重要性を共通理解するとともに、学校全体のカリキュラムをスリム化して、カリを詰め込みすぎないようにして、全体のバランスを見直す。
- ・小学校入学前に不安を抱える園児によりそった交流内容になるよう、学校の様子や学校生活の様子が伝わるような内容にした。
- ・園の受け入れ態勢を整える。

設問 9:大人どうしの連携活動の実施回数

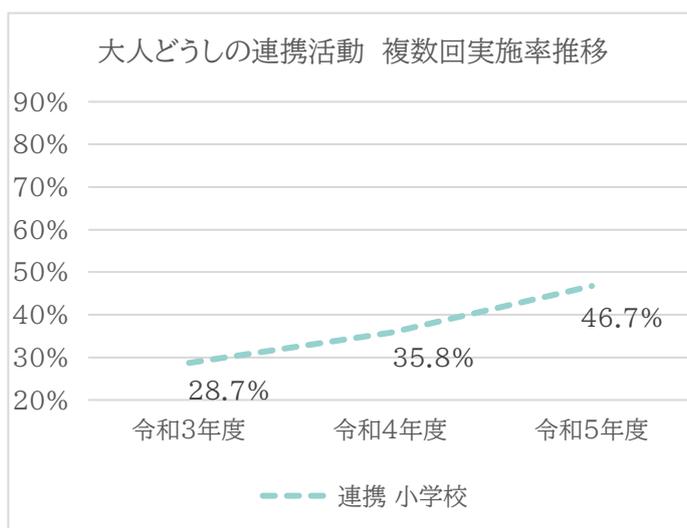
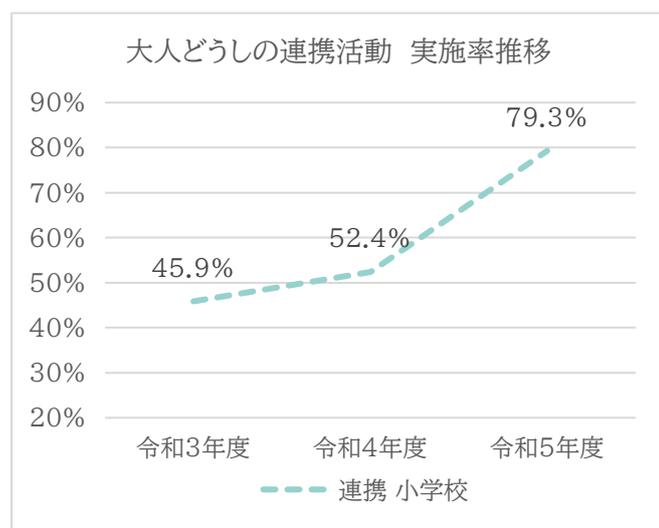
今年度、園の職員と大人どうしが一緒に活動する「連携活動」は何回実施しましたか。(1つ選択)

	0回	1回	2回以上	合計
回答数	70	110	158	338



【分析】

- ・2回以上実施した割合が最も高かった。
- ・令和3年度からの経過をみると、「少なくとも1回以上実施した割合」は+33.4pt と大幅に上昇した。また、複数回実施した割合は+18ptとなっている。



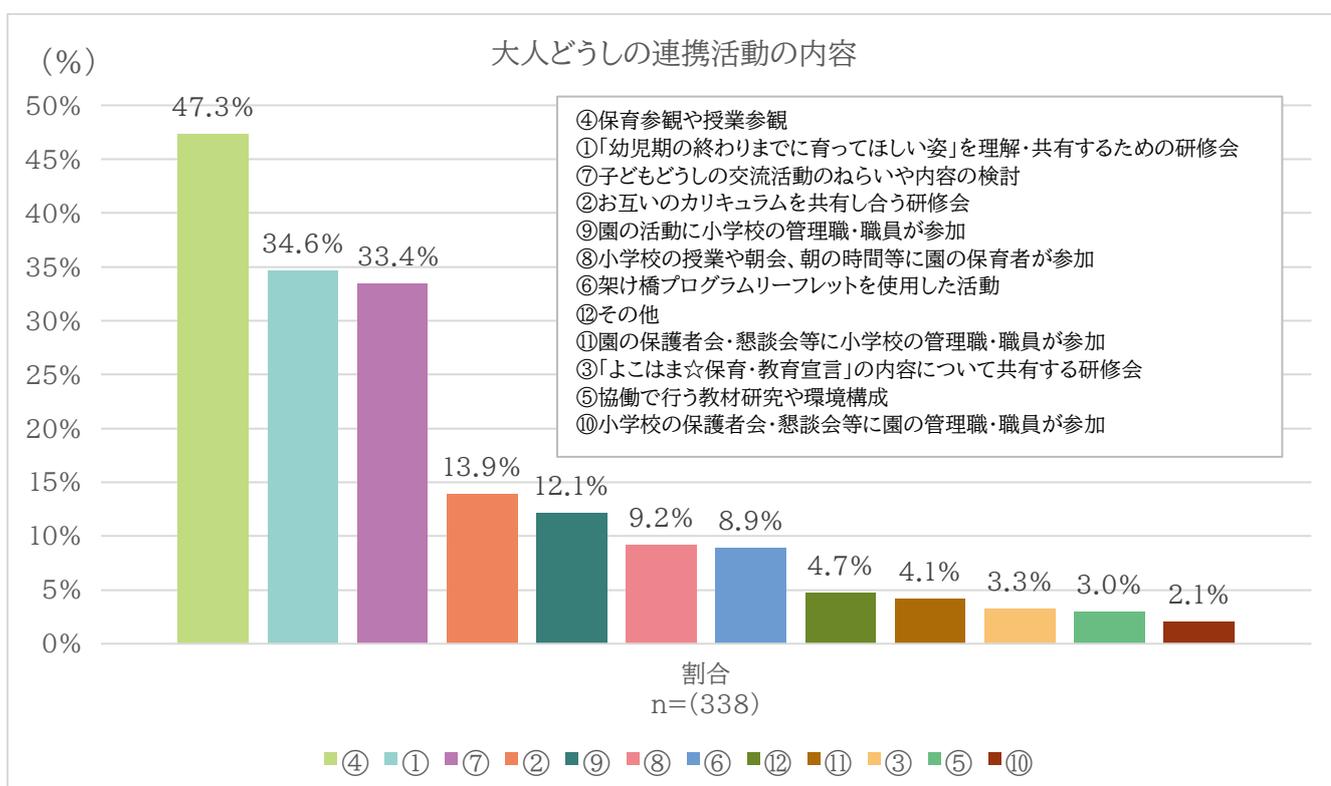
設問 10-1:大人どうしの連携活動の内容

大人どうしの連携活動の内容を教えてください。(複数選択可)

- ①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解・共有するための研修会
- ②お互いのカリキュラムを共有し合う研修会
- ③「よこはま☆保育・教育宣言」の内容について共有する研修会
- ④保育参観や授業参観
- ⑤協働で行う教材研究や環境構成
- ⑥架け橋プログラムリーフレットを使用した活動
- ⑦子どもどうしの交流活動のねらいや内容の検討
- ⑧小学校の授業や朝会、朝の時間等に園の保育者が参加
- ⑨園の活動に小学校の管理職・職員が参加
- ⑩小学校の保護者会・懇談会等に園の管理職・職員が参加
- ⑪園の保護者会・懇談会等に小学校の管理職・職員が参加
- ⑫その他

	①	②	③	④	⑤	⑥
回答数	117	47	11	160	10	30

	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
回答数	113	31	41	7	14	16



【分析】

「④保育参観や授業参観」を行った学校が最も多く、47.3%となっている。次いで「①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解・共有するための研修会」、「⑦子どもどうしの交流活動のねらいや内容の検討」が高くなっている。

設問10-2:連携活動の内容 その他記述

その他と回答した方に質問です。大人どうしが連携した内容について教えてください。(記述)

[抜粋]

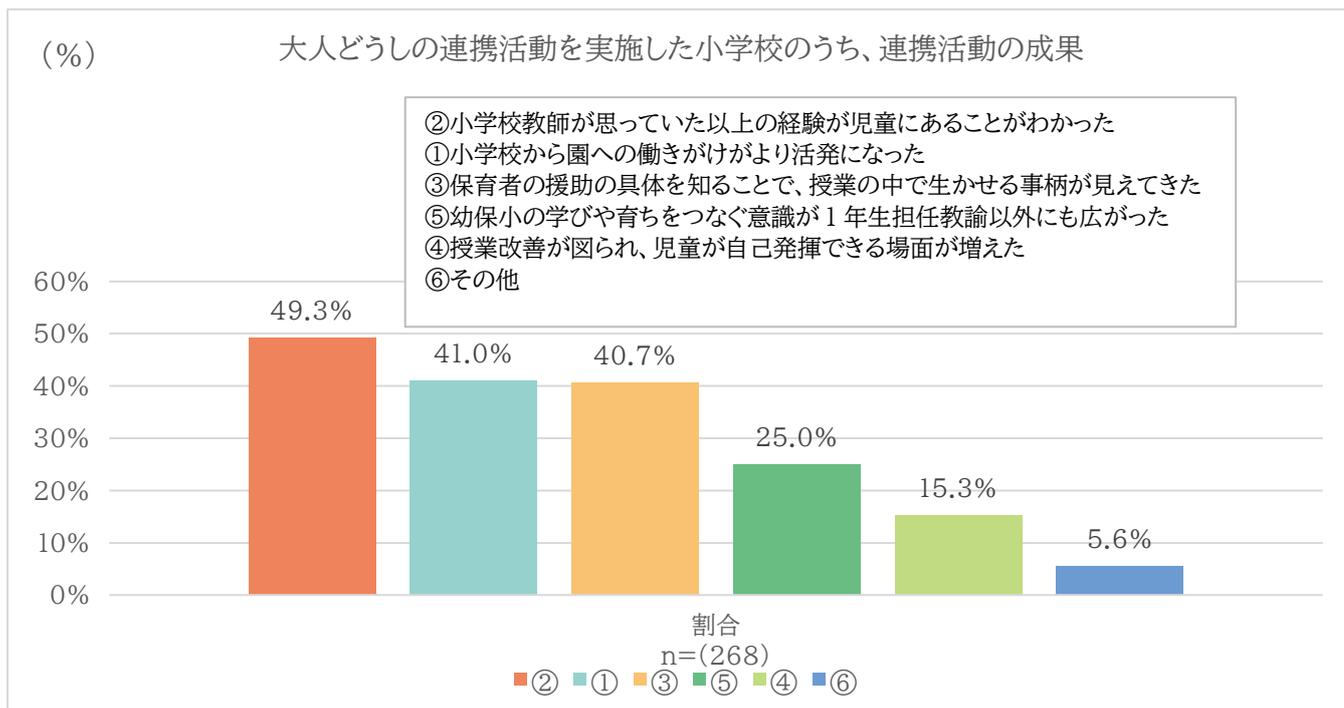
- ・幼保小交流事業子育て講演会への参加
- ・校長・園長会実施
- ・年長児担当者と1年担任で顔合わせ・情報交換
- ・子ども・保護者理解の講演会
- ・区の幼保小交流事業
- ・避難訓練
- ・テーマにそったフォトカンファレンス、幼保小の発表会に向けての話合い
- ・運動会で行う演技パラバルーンの演技指導の方法を幼稚園の先生に教わる研修をしました。
- ・図書館のリニューアルにともない園児と図書館司書が交流
- ・園児の情報共有

設問 11:大人どうしの連携活動の成果 抜粋

大人どうしが連携した成果として、当てはまるものを教えてください。(複数選択可)

(n=設問 9 で「1 回」「2 回以上」の回答数)

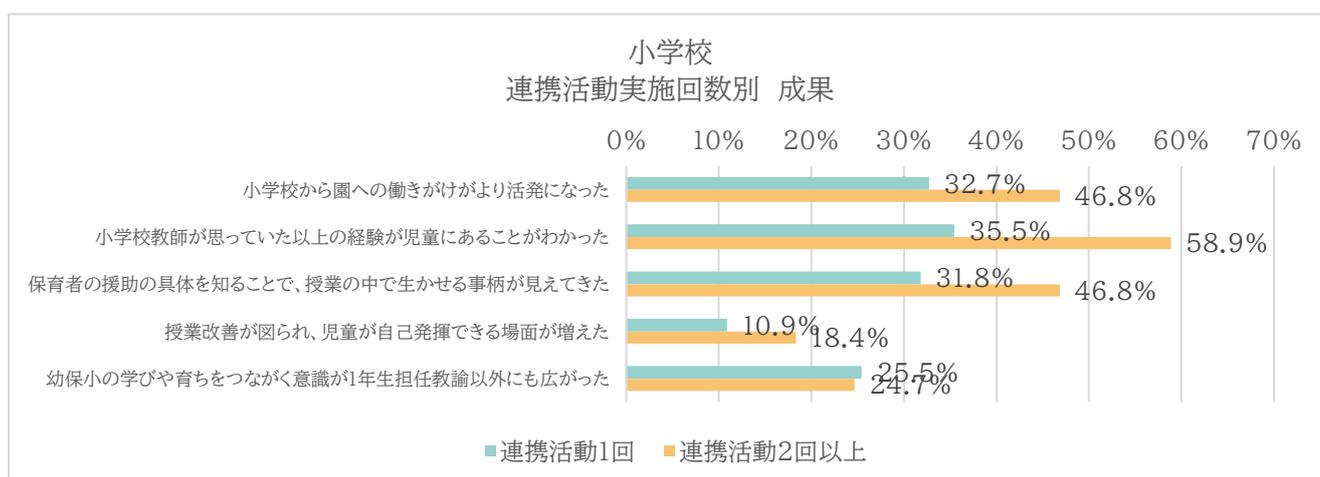
	①小学校から園への働きかけがより活発になった	②小学校教師が思っていた以上の経験が児童にあることがわかった	③保育者の援助の具体を知ること、授業の中で生かせる事柄が見えてきた	④授業改善が図られ、児童が自己発揮できる場面が増えた	⑤幼保小の学びや育ちをつなぐ意識が1年生担任教諭以外にも広がった	⑥その他
回答数	110	132	109	41	67	15



【分析】

・「②小学校教師が思っていた以上の経験が児童にあることがわかった」が最も高く、大人どうしの連携活動を実施した学校のうち約半数が選んでいる。

・「⑤幼保小の学びや育ちをつなぐ意識が1年生担任教諭以外にも広がった」を除き、連携活動1回実施よりも、連携活動2回以上実施した方が、成果の選択率が高い。交流活動を複数回実施することで、成果を実感しやすいことが示唆される。



設問12:連携活動未実施の理由や課題

大人どうしの連携活動の実施ができなかった理由や、課題についてお聞かせください。(記述)

[抜粋]

- ・自分の所属校の行事や活動が多く、連携活動まで手が回らなかった。
- ・時間の確保が難しい。複数園あるので、全ての園との関わるとなると調整も難しい。放課後その調整の時間に多くを取られてしまう。
- ・時間の不足。企画運営する役割がない。余裕がない。
- ・コロナ禍からの流れもあり、年間の行事計画に位置付けていないので。
- ・実践した実績がなく、園に声をかけることができなかったから。
- ・小学校側の主導で今回行いました。幼稚園・保育園側からのアイデア提案など、話しやすい環境の機会・場所がなかったのかもしれませんが。年間予定を交流し合ったり、お互いどんな関わりでどんな子どもの成長をイメージしているかを話し合う機会があるとより連携しあえたのかもしれないです。
- ・コロナで幼保小交流が難しくなったことで、大人同士の連携活動も行わなくなってしまったと思う。コロナ前のように活動できるようになった今、互いの授業参観や、教育目標の共有等の必要性を強く感じる。
- ・コーディネーター役がいなかったこと、園と小学校でどちらが主になるかわからなかったため
- ・実施するのが望ましいとは思いますが、計画を立てたり時間を確保したりするのが難しい。
- ・年度初めに計画されていない。大人の連携活動の目的などはっきり共有できていないから。

設問 13-1: 幼保小連携・接続の活動促進に効果的だと思う大人どうしの連携活動の内容

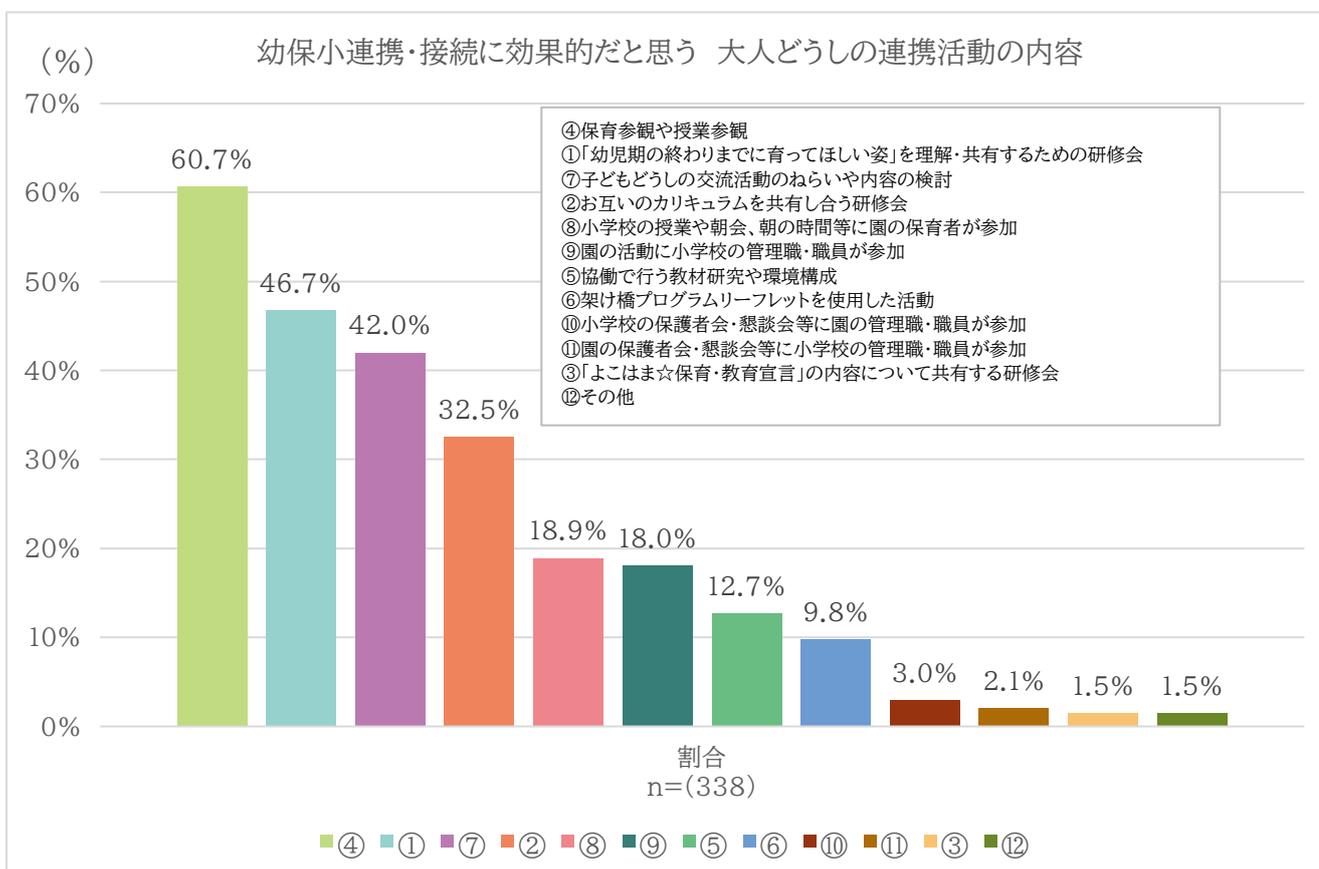
幼保小連携・接続の活動を促進※する上で、効果的だと思う大人どうしの連携活動を選択してください。(3 つまで選択可)

※カリキュラムの改善、環境構成の工夫、子どもへの支援の充実、保護者や地域の方とのコミュニケーションの円滑化などが該当します。

- ①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解・共有するための研修会
- ②お互いのカリキュラムを共有し合う研修会
- ③「よこはま☆保育・教育宣言」の内容について共有する研修会
- ④保育参観や授業参観
- ⑤協働で行う教材研究や環境構成
- ⑥架け橋プログラムリーフレットを使用した活動
- ⑦子どもどうしの交流活動のねらいや内容の検討
- ⑧小学校の授業や朝会、朝の時間等に園の保育者が参加
- ⑨園の活動に小学校の管理職・職員が参加
- ⑩小学校の保護者会・懇談会等に園の管理職・職員が参加
- ⑪園の保護者会・懇談会等に小学校の管理職・職員が参加
- ⑫その他

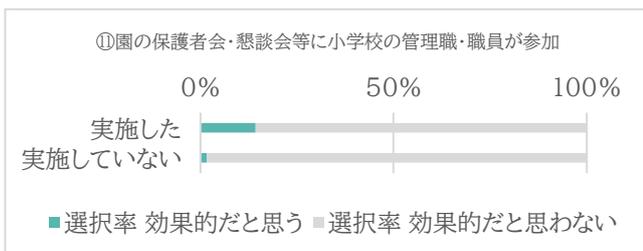
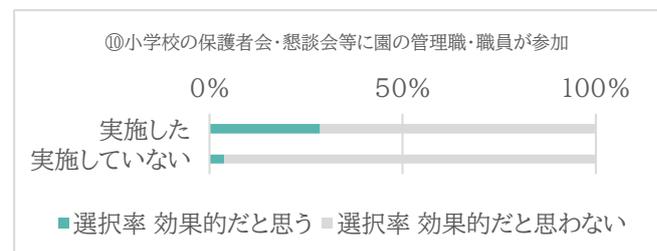
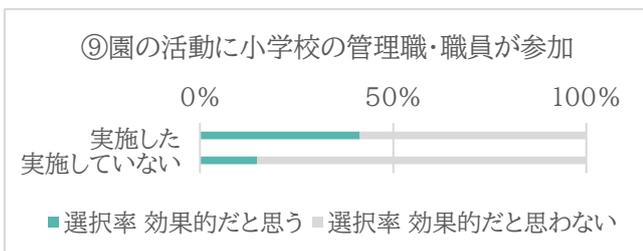
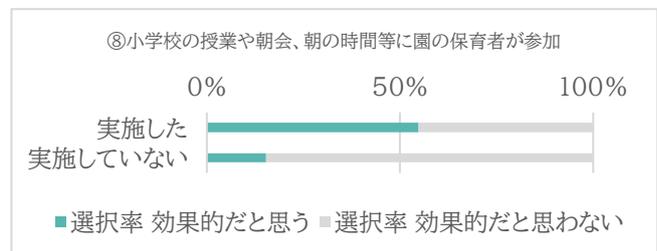
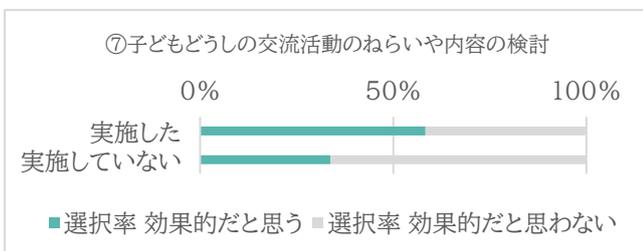
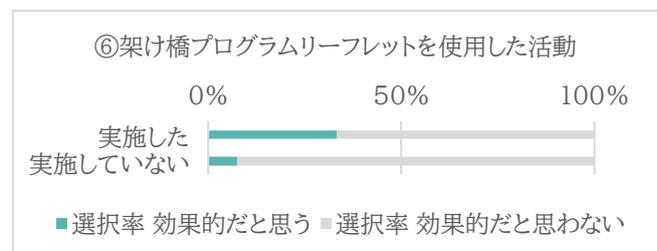
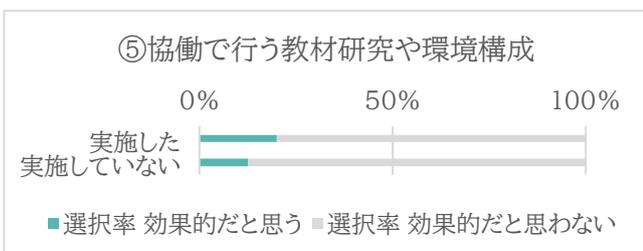
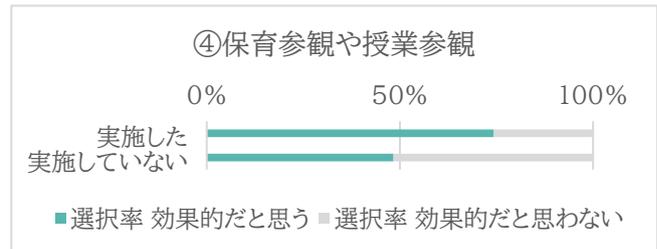
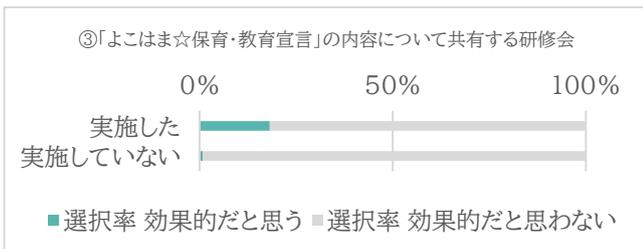
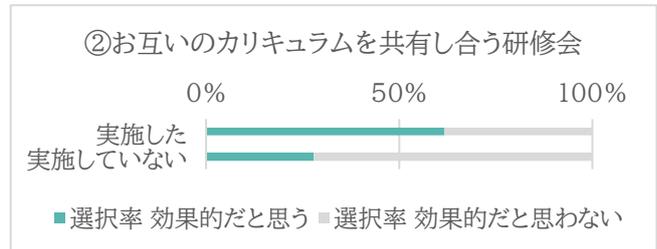
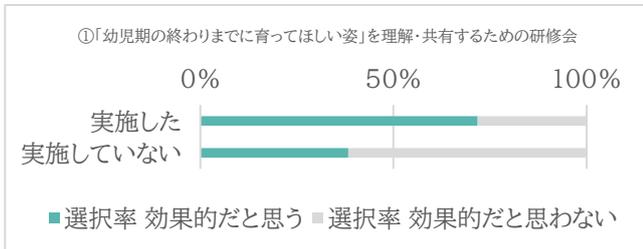
	①	②	③	④	⑤	⑥
回答数	158	110	5	205	43	33

	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
回答数	142	64	61	10	7	5



【分析】

連携活動促進のために効果的な連携活動を問う設問において、各活動を実施したグループと実施していないグループに分けると、実施した経験を持つグループの方が、効果的であると選択する割合が多い傾向にある。全ての項目においてこの傾向があてはまっている。



設問13-2:効果的だと思う連携活動 その他記述

その他と回答した方に質問です。幼保小連携・接続の活動を促進する上で、効果的だと思う大人どうしの連携活動の内容を教えてください。(記述)

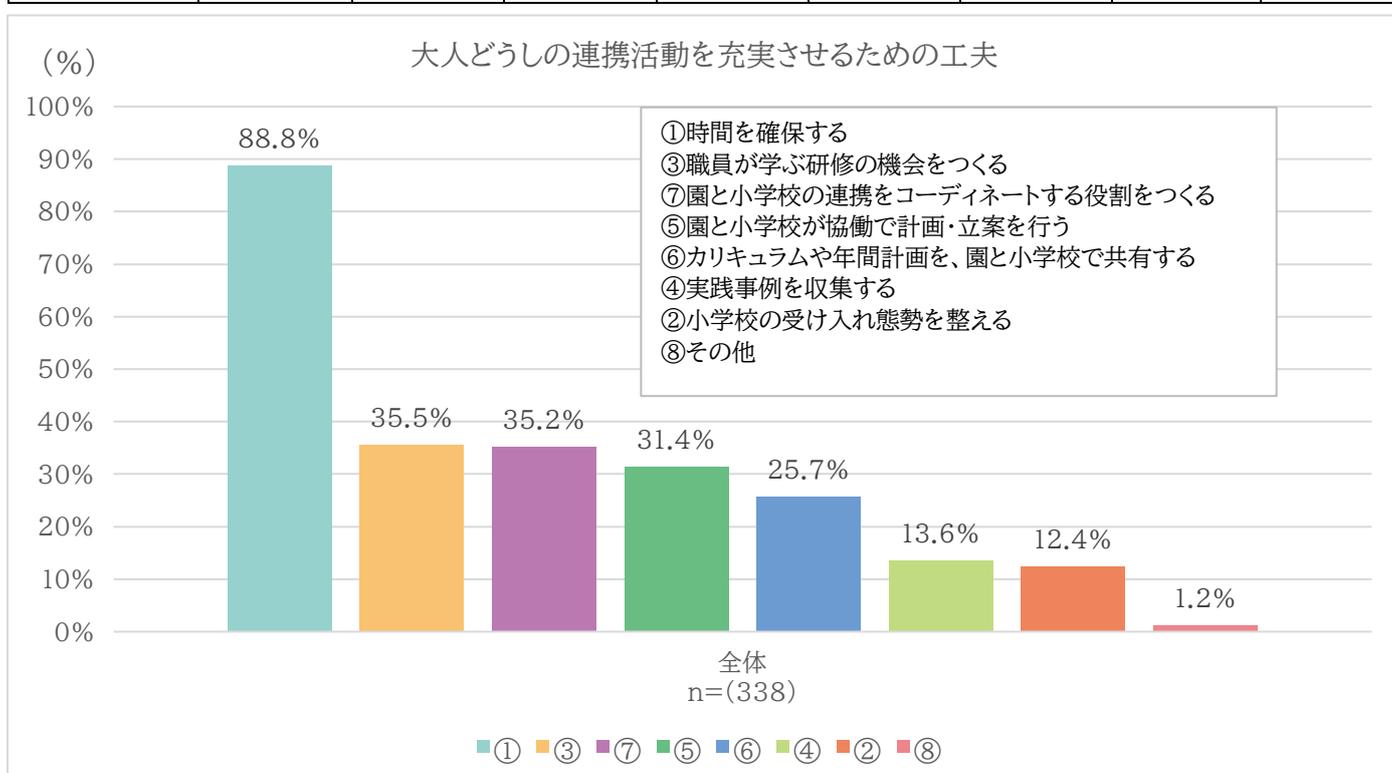
[抜粋]

- ・児童指導の共通理解を図る場を設けること
- ・4月当初に、お互いに直接会って、子どもの目指す姿を共有した上で、年間計画を立てる。必要な場合には、情報共有する場を設ける。
- ・年度はじめに担当者同士で顔合わせを行う。
- ・①園長さんたちと校長の打ち合わせ ②園長のまち懇参加 ③職員の保育士体験

設問 14-1:大人どうしの連携活動を充実させるための工夫

大人どうしの連携活動をより充実させるためには、どのような工夫が必要と考えますか。(3 つまで選択可)

	①時間を確保する	②小学校の受け入れ態勢を整える	③職員が学ぶ研修の機会をつくる	④実践事例を収集する	⑤園と小学校が協働で計画・立案を行う	⑥カリキュラムや年間計画を、園と小学校で共有する	⑦園と小学校の連携をコーディネートする役割をつくる	⑧その他
回答数	300	42	120	46	106	87	119	4



【分析】

「①時間を確保する」を選んだ割合が最も高く、88.8%となっている。他の選択肢と比較しても、大幅に高い数値となっている。

設問14-2:連携活動充実のための工夫 その他記述

その他と回答した方に質問です。大人どうしの連携活動充実のための工夫について教えてください。(記述)

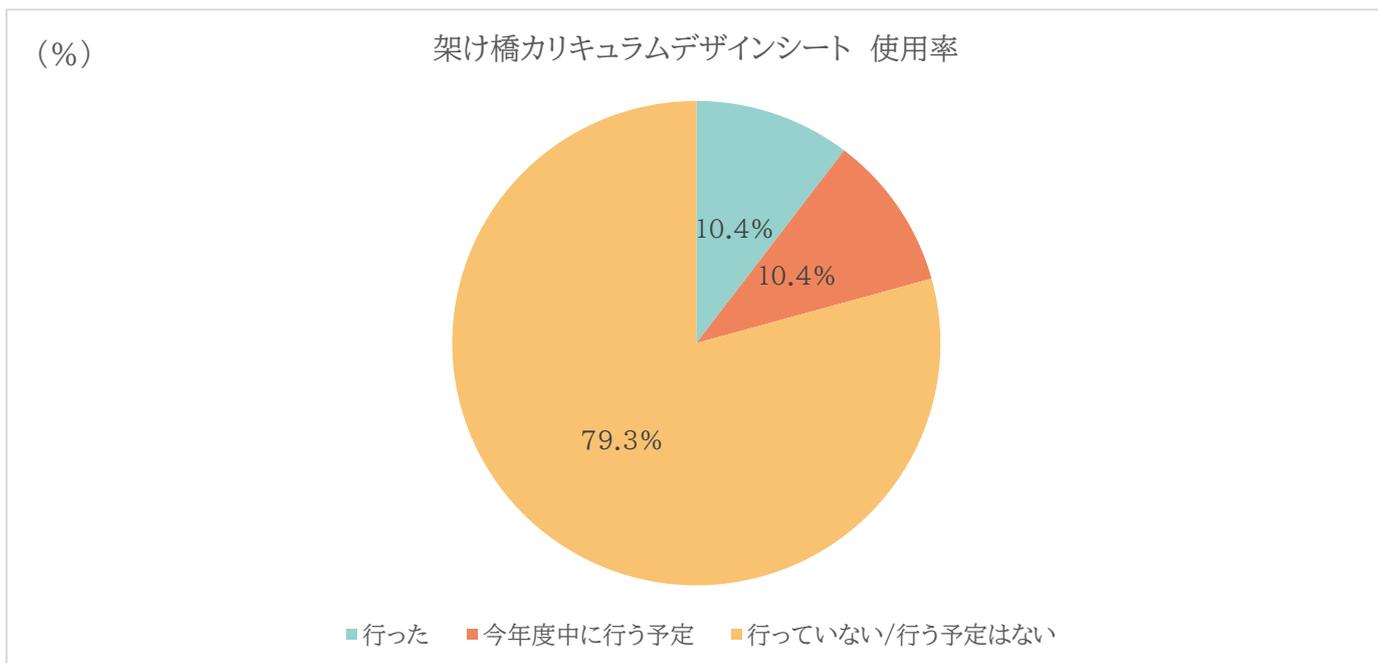
[抜粋]

- ・本校の場合、関係のある園が30を越えるので、交流をする園の選定も慎重に行う必要がある。
- ・園も小学校もそれぞれに忙しいので、それぞれが連携できるようにコーディネートする役割があるとありがたい。
- ・年度はじめに担当者の顔合わせを行う。
- ・交流をコーディネートする人を時間的に余裕のある人にする。(専科教員など)。また、幼保小交流の経験がある人や低学年の経験がある人にした方がよい。初めてやる人や高学年を多く担任していた人だと、まったく活動の見通しがもてない。

設問 15:架け橋カリキュラムデザインシートの使用有無

・今年度、架け橋カリキュラムデザインシートを使用した研修等を行いましたか。(1つ選択)

	行った	今年度中に行う予定	行っていない/ 行う予定はない	合計
回答数	35	35	268	338



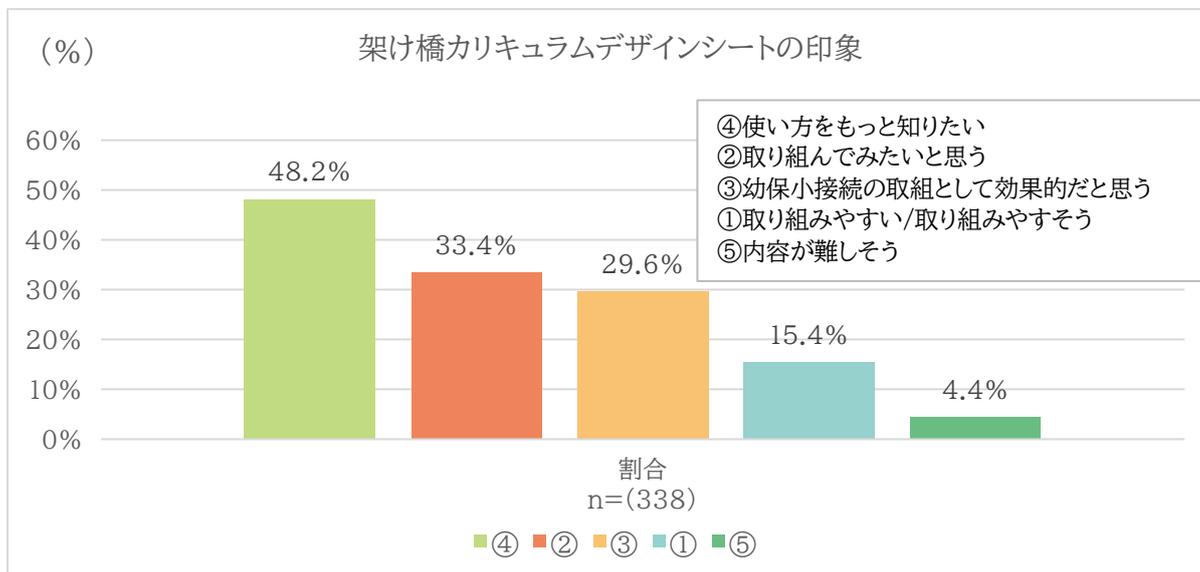
【分析】

・既に「行った」と回答した割合は、全体の約10%。「今年度中に行う予定」と回答した割合と合わせると、約20%となる。

設問 16: 架け橋カリキュラムデザインシートの印象

架け橋カリキュラムデザインシートの印象について、あてはまるものを教えてください。(複数選択)

	①取り組みやすい/取り組みやすそう	②取り組んでみたいと思う	③幼保小接続の取組として効果的だと思う	④使い方をもっと知りたい	⑤内容が難しそう
回答数	52	113	100	163	15

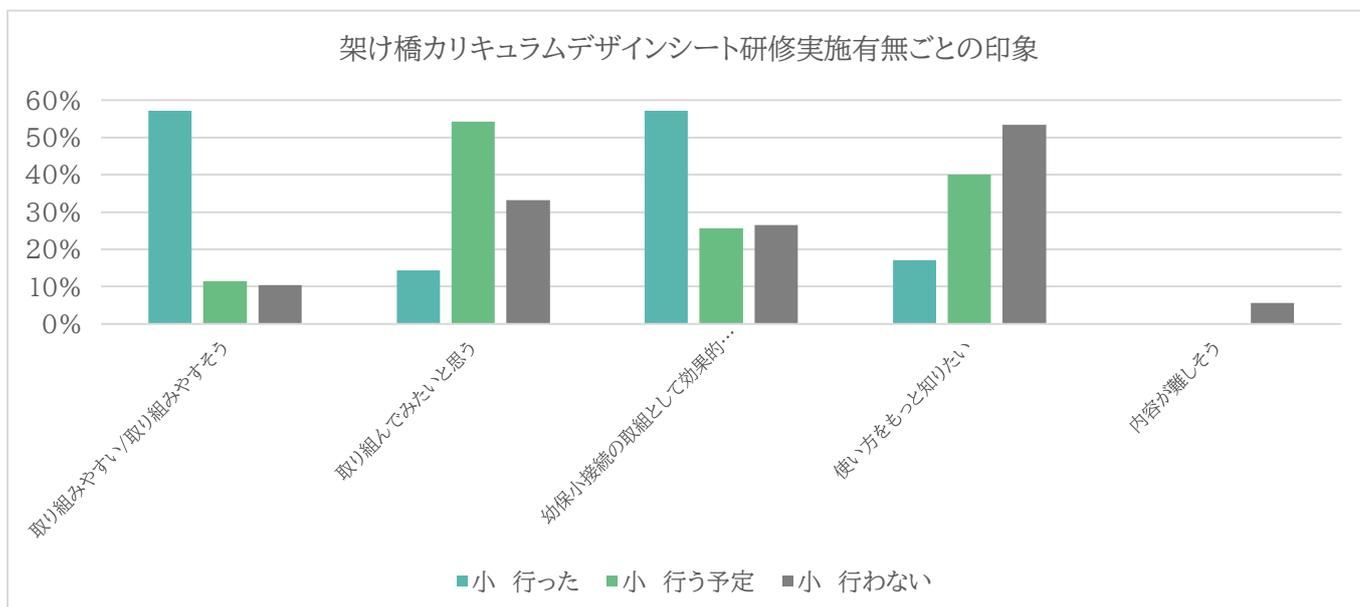


【分析】

・「①取り組みやすい/取り組みやすそう」と回答している回答者の内訳をみると、架け橋カリキュラムデザインシートを使用した研修をすでに「行った」と回答した割合が最も高かった。行う前よりも、行ったあとに取り組みやすさを実感していることが示唆される。

・「③幼保小接続の取組として効果的だと思う」と回答している回答者の内訳をみると、架け橋カリキュラムデザインシートを使用した研修をすでに「行った」と回答した割合が最も高かった。研修を行った後に効果を実感するものであることが示唆される。

・「④使い方をもっと知りたい」と回答した割合が最も高いが、回答者の内訳をみると、架け橋カリキュラムデザインシートを使用した研修を「行わない」と回答している割合が最も高かった。研修を行う予定はないが、情報を得たいと考えている学校が多い可能性がある。



設問17: 架け橋カリキュラムデザインシートの感想

架け橋カリキュラムデザインシートを使用した感想や、使用する上での課題などについてお聞かせください。(記述)

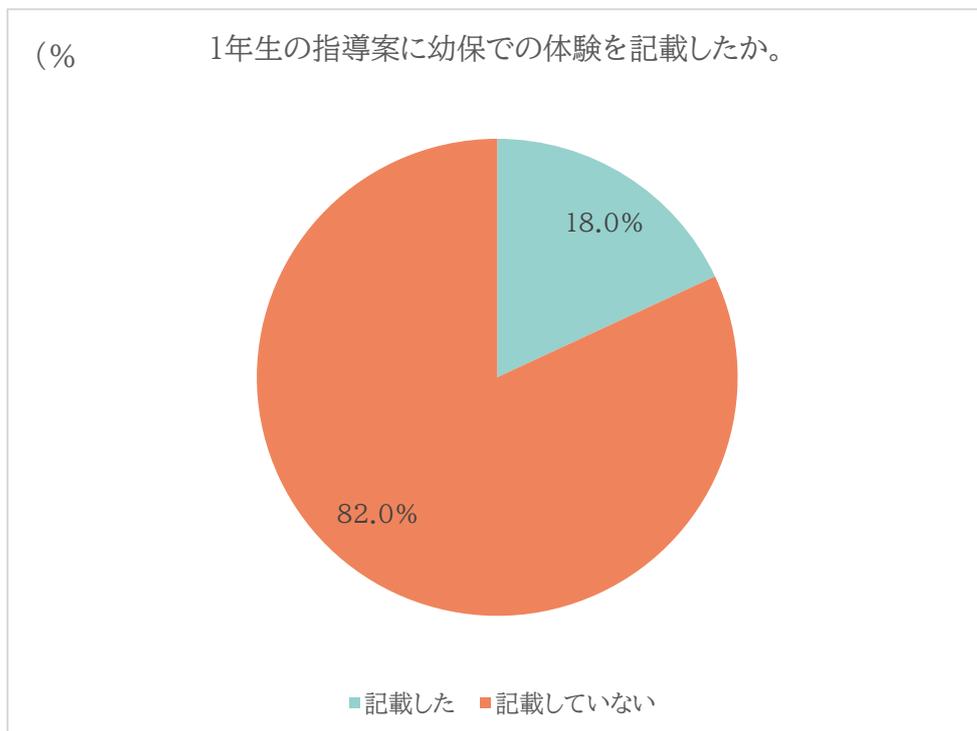
[抜粋]

- ・考えや思いを共有することで子どもたちに必要な取り組みや今までに育んできている力について共通理解がもてるように感じる。
- ・担当だけではなく、全職員で共有するのが課題である。
- ・園の先生方と子どもの姿を共有できた。
- ・カリキュラムデザインシートにより、架け橋期の子ども姿のイメージを共有できたのは良かったのですが、そこからどう現場での実践に繋げていくか、活用の方法を考えていきたいです。
- ・すばらしい取組だと思うが、日常の業務が多すぎて時間的な余裕がない。
- ・園と小学校のそれぞれの思いが、視覚的に分かりやすいので取り組むと効果的だと感じる。どの時期に使うか等、詳しい使い方が知りたい。
- ・年長児、1年生それぞれがどんなことに夢中になっているのかを知ることによって、大切にしたい姿や活動について話し合うことができ、架け橋期に園と小学校がそれぞれに意識して指導する大切さについて気づくことができた。引き続き、園と小学校の職員による話し合いを進めて行く予定。
- ・職員の意識や力量によって活用度が変わってくること
- ・架け橋カリキュラム内容もデザインもとても考えられていて分かりやすいです。
- ・負担なくできるような内容

設問 18-1:指導案への幼保での体験記載有無

1年生の指導案に幼保での体験を記載しましたか。(1つ選択)

	記載した	記載していない	合計
回答数	61	277	338



設問18-2:幼保での体験記載による効果

記載したと回答した方に質問です。1年生の指導案に幼保での体験を記載したことでの効果を感じられることがあれば、お聞かせください。(記述)

[抜粋]

- ・公開授業研の指導案に記載し、その件について、講師の指導主事より補足は助言を加えたことで、区内の多くの教員の学ぶ機会ともなった。
- ・指導案に記載するために、子ども達に幼保での経験や活動を担任がよく聞き取った。聞き取らなければ分からないことなど、そこから新しい発見があった。
- ・幼保での体験を子どもが思い出すことで、自分たちが体験してきたことが生かせたり、イメージしやすくなったりした。同じ幼保ではない友達に伝えるよう発言していた。
- ・幼保と小学校のつながりや、幼保の時にどんなことを経験してきたかが、分かりやすい。
- ・子どもが1から小学校で学ぶのではなく、園での経験の土台があった上でどんな学びをしていくか明確になった。
- ・経験の有無など配慮して指導ができた。
- ・1年生の学びが0からではなく、豊かな経験の上に成り立っていることが分かった。
- ・国語と生活科を合わせた授業研究だったので、主体的な学びの高まりについてを視点を持って検討できた
- ・小学校で取り組む問題解決場面をどうするかについて、指導案検討会で話しやすかった。
- ・児童の実態をより深く理解しようとした。